



成蹊大学 ボランティア 支援センター

2024年度

年次報告書

目 次

巻頭言	1
ボランティア支援センターについて	3
第Ⅰ章 活動報告	5
第1部 総括	
第2部 個別報告	
1) 年間テーマ事業「Seikei Diversity&Inclusion プロジェクト (SDI)」	
2) ボランティア活動等の推進	
3) ボランティア活動等の意識向上・啓発活動	
4) ボランティア活動等の教育研究活動	
5) ボランティア活動等の広報及び情報発信	
第3部 学生によるボランティア活動報告	
1) 学生スタッフ Seivior	
2) 学生ボランティア団体サポート制度登録団体	
第Ⅱ章 活動実績	43
1) 2024年度実績一覧	
2) 相談実績	
3) 成蹊ボランティアパートナー団体制度 承認団体一覧	
4) ガイドラインパス団体一覧	
5) 成蹊ボランティアプログラム (SVP) 実施報告	
6) 社会活動支援奨学金実績	
7) 学内募金活動実績	
8) 刊行物一覧	
第Ⅲ章 資 料	59
1) 構成員一覧	
2) 関連規則	

巻 頭 言



成蹊大学長 森 雄一

中村春二の教育理念から

2023年3月の枯林忌において、北村和夫聖心女子大学名誉教授（成蹊学園評議員）が本学の創設者、中村春二の教育理念について、3つの注目点を挙げてご講演なさいました。大変興味深いものでしたので、その後、『成蹊会誌』137号にまとめられた記事を多くの方に読んでいただきたいと思います。

3つの注目点というのは、次のようなものです。

- （１）中村春二は成蹊を、近世「私塾」の発展形のイメージでとらえていた。
- （２）貧困や社会問題解決への公共的使命感
- （３）心の教育を根底に置く学校

いずれも重要な着眼点ですが、ここでは（２）の観点について、北村先生のお話をもとにお示しします。本学の淵源となる成蹊実務学校は貧困のため、能力があっても進学できない者に、中等教育への道を開くために無月謝でした。また、洋画家中村彝や植物学者牧野富太郎のような貧困に苦しむ若き才能に対して、中村春二は惜しみなく援助を行いました。社会全体が貧しく、階層間に大きな格差があった時代に、教育の立場から果敢に挑戦した人物を創設者に持つことはその後継たる者として心に留めなければなりません。北村先生はこうした貧困や社会的弱者への温かい目、解決に向けての公共的使命感は成蹊のDNAとして引き継いでもらいたいと切々と語られました。ボランティア支援センターがそのDNAを体現する機関として大きな機能を果たすことは誰もが期待するところです。創設者の思いが現代でも生かされることを心より願っています。



成蹊大学ボランティア支援センター所長 境 広志

成蹊大学ボランティア支援センターでは今年度も多彩な活動を展開しました。成蹊ボランティアプログラム(SVP)をはじめとした様々なプログラムや講座、春のボランティアカフェ、秋のボランティアウィーク、社会活動支援奨学金を活用した活動や学生スタッフ(Seivior)のサポート、そして視覚障害者でフリークライマーの小林幸一郎氏をお招きしてのD&Iセミナーの開催など。また、初めての試みとして学内のボランティア団体同士の交流を目的としたパーティーを開催しました。詳細については本書もしくはセンターホームページをご覧ください。

さて、本センターは設立11年目を迎え、次年度以降のテーマ事業として、武蔵野市との連携を通じて地域・社会課題プロジェクトへの取り組みをスタートしました。これまでの日々の活動にご協力・ご尽力いただきましたみなさまに感謝を申し上げつつ、次の10年に向けての飛躍を目指していききたいと思います。



成蹊大学ボランティア支援センター副所長 浅沼 雅行

昨年度の年次報告書では、第Ⅲ章において本センター設立10周年の歩みと成果をまとめ、次の設立20周年に向けた方針・方向性(以下「今後の方針・方向性」という)を検討し、今年度6月の本センター第1回運営委員会において審議し承認されました。

これを受け2024年度年次報告書では、第1章の第1部及び第2部の本センターの活動報告部分について、今後の方針・方向性に合わせて構成を見直し、併せて、第1章の第3部として、学生スタッフ及び本センターの登録団体等の活動も記録として残すこととしました。

2014年度の設立からの10年間は、どちらかと言えば学内の学生支援の事業プログラムの充実に重点が置かれました。しかし、設立20周年に向けた次の10年は、学生支援の充実を図りつつ、その充実のためにもより一層視野を外に向け、学外関連団体等の絆を強化し、センターが学内外の窓口となる地域社会貢献活動支援を強化して行くことが求められます。その一步を踏み出すのがまさにこの2024年度であり、実りある未来に向けゆっくりとしかし着実な歩みを始める大切な時期にあたります。今後も学内外で関係した方々との絆を深め、学園の中の開かれた窓口の1つとして発展して行きたいと思っています。

ボランティア支援センターについて

(センターの目的～ミッション～)

成蹊大学における学生及び教職員によるボランティア等の地域・社会貢献並びに地域交流活動(以下「ボランティア活動等」という)に対する意識の高揚を図り、学生及び教職員が行うボランティア活動等について支援する。

(センターの事業)

上記目的(ミッション)を達成するため、次の(1)～(6)をセンターの事業(*1)として取り組む。

(1) ボランティア活動等に関して学長が委嘱する事項(「テーマ事業」)

学長が毎年度委嘱する事業をいい、社会からの要望や学生のニーズにあわせて年度ごとに設定し、ボランティア支援センターとして重点的に取り組んでいくもの

2024 年度テーマ事業：「Seikei Diversity&Inclusion プロジェクト」

(2) 学生・教職員のボランティア活動等の推進に関する企画立案、運営及び支援に関すること

ボランティア活動を体験も含めて後押しし、推進していく取組み

(例) 成蹊ボランティアプログラム、はじめてのボランティア、地域連携活動など

(3) 学生・教職員のボランティア活動等の意識向上のための啓発活動に関すること

ボランティア活動の意義や価値、魅力を学内外に広め、意識を持たせる取組み

(例) 防災・災害プログラム、ユニバーサルマナー検定、ボランティアガイダンス、ボランティアカフェなど

(4) 学生・教職員のボランティア活動等に関する教育研究活動に対する企画・支援に関すること

学生及び教職員の自発的で主体的なボランティア活動を後押しする取組み

(例) 各種相談事業、社会活動支援奨学金、学生ボランティア団体サポート制度、学生スタッフ制度など

(5) 学生・教職員のボランティア活動等に関する広報及び情報発信に関すること

上記 1) から 4) の活動に関する各種広報及び情報発信

(例) 年次報告書を含め各種冊子類の発行、WEB サイトの運営、メールマガジンのポータルサイトでの発信、学生スタッフによる X(旧 Twitter)での発信など

(6) その他センターの目的の達成のための必要な事項

(例) 成蹊教養カリキュラム「武蔵野地域連携セミナー」など

(*1) この年次報告書では、文章構成の関係から、第三章 資料編の「成蹊大学ボランティア支援センター規則

(以下「規則」という)」の第 3 条(事業)を基に、上記(1)～(6)に取り組む事業とし、第 I 章 活動報告の第 2 部では学生支援について上記の順番・内容に従って個別に報告する。

第 I 章

活 動 報 告

2024 年度活動報告

2024 年度は、2023 年度における COVID-19 への政府による取り扱いの変更から 1 年が経ち、飲食を伴う活動を含めた対面での活動もできるようになった。

これにより、4 月からの新入生歓迎イベントも通常どおり復活し、年間のイベントも滞りなく行うことができた。具体的には、学生の昼食時を中心に実施したボランティアカフェ（pp. 16～17 参照）及びボランティアウィーク（p. 18 参照）、今年度最終年度となったテーマ事業「成蹊 D & I プログラム」小林幸一郎氏による講演会とフリーセッション（p. 11 参照）、センター登録団体を中心に学内交流に重点を置いたボランティア交流パーティー（p. 20 参照）、高等教育開発・支援センターとのコラボによる新 11 号館で行った社会活動支援奨学金の成果報告会（p. 22 参照）など、多くの学生・教職員と地域の方々の参加があり充実した 1 年となった。

第 1 部 総括

（事業別の提供状況）

（1）テーマ事業（成蹊 D & I プロジェクト）

2022 年度より 3 年計画で「Seikei Diversity & Inclusion プロジェクト (SDI)」と題し、特に「障がい」にテーマを絞り、「共生社会の実現」に向けボランティア活動等を啓発・推進してきた。

2022 年度は、東京大学先端科学研究セン

ター准教授（当時）の熊谷晋一郎氏をお招きし、「障がい理解講座」を実施した。また 2023 年度は、ボッチャ日本代表坂井結花選手による講演会・体験会、水泳日本代表・パラメダリスト富田宇宙選手による講演による講演会・体験会を実施した。

最終年度となる 2024 年度は、視覚障害クライマー NPO 法人モンキーマジック代表理事 小林幸一郎氏による講演会を開催した。小林氏は、武蔵野市在住で NPO 法人モンキーマジックの代表理事として設立から 20 年を迎え、フリークライミングの普及を通して、様々な交流を生み出し、多様性を認め合うことのできる成熟した社会の実現を目指し日々活動をしている。

今回はセンター設立 10 周年記念講演会も兼ねての実施となり、境所長の「健康政策論」及び竹内前所長の「武蔵野地域連携セミナー（ユニバーサルスポーツでつながる）」の後期授業科目とも兼ね、さらに武蔵野市を中心に広報し、市民を含め約 300 名を集めた講演会となった。（p. 11 参照）

成蹊 D & I プロジェクトは今年度で終了するが、その他にも学生スタッフによる企画やボランティアウィーク等でも本プロジェクトに関連したプログラムを実施した。なお、2025 年度以降は新たなテーマ事業として、「学生×地域社会課題プロジェクト」に取り組むこととした。

（2）ボランティア活動等の推進事業

・はじめてボランティアプログラム

「切手の資金化ボランティア」（認定 NPO 法人 地球の友と歩む会 /LIFE）、「フラワーポットの植え替えボランティア」（吉祥寺公

園通り商店会主催)を行った。また、年度途中の 9 月からボランティアコーディネーターが交代したのを機に、11 月末に新たな企画として海外の教育支援をしている団体で、はじめてボランティアプログラムを実施した。(p. 13 参照)

学生が気軽に参加できる「はじめてボランティアプログラム」は、「成蹊ボランティアプログラム」との相乗効果も考えながら、できるだけ多くの分野をカバーできるような工夫が今後は必要であろう。次に記載する「成蹊ボランティアプログラム」と合わせて多様な学生のニーズに応える展開にしたい。

・成蹊ボランティアプログラム (SVP)

「はじめてボランティアプログラム」とは異なり、ボランティアを始める前の座学(ガイダンス、研修)、ボランティア体験、振り返りの 3 段階の構成で行うプログラムである。前年度は年間 4 プログラム実施したが、今年度は 6 プログラム実施し、学生の多様なニーズに対応した。特に「体験」とその「言語化」による振り返りが、教育的には「肝」だといえる。

2024 年度は、前期には地域、環境、防災・減災、後期には学習支援、福祉系を行った。(p. 12 参照、pp. 54～55 参照)

(3) 啓発事業

・災害救援ボランティア講座 (外部会場)

2024 年度は、2023 年度と同様に、他機関で実施される同講座に参加した学生に対し、受講料全額を補助した。(p. 15 参照)

自然災害にかかるボランティアへの理解と実践は、地球温暖化や異常気象が日常化している昨今、その重要性はさらに増している。設立当初はテーマ事業として東日本大震災にかかるスタディーツアーを実施し、その後は、啓発事業として災害救援ボランティア講座などへの参加、本学での当該講座の実施など、形を変え継続的に実施している。

・ボランティアカフェ

4 月及び 6 月にそれぞれ「春のボランティアカフェ」、「夏のボランティアカフェ」を実施した。

「春のボランティアカフェ～活動中の学生から話を聞こう！～」では、新入生を意識し、次のとおりセンター登録団体の代表に団体紹介も含めボランティアの面白さを語ってもらった。(p. 16 参照)

また、「夏のボランティアカフェ～国際ボランティアについて聞いてみよう～」では、6 月 11 日(火) NPO 法人 NICE 田中瑛子氏及び 6 月 20 日(木)に認定 NPO 法人 CFF ジャパン猪原聖氏及び参加している学生 4 名(他大学)より、国際ボランティアの魅力を伺った。

秋のボランティアカフェでは、本学内で長く続いている「けやき循環プロジェクト(※)」について、教職員がメインで取り組んでいる活動としてワークショップ等も行い、広く教職員にも向けて広報・啓発を行った(p. 17 参照) また、学生スタッフの佐多結菜さん(文学部国際文化学科 3 年)が、日独学生青年リーダー交流事業へ参加した研修の報告を行った。

(※)成蹊学園のケヤキ並木の落ち葉を活用して循環する

仕組みを作りだそうと様々な活動。学園の自然に関する環境活動を通して、学内（小中高大）及び地域を含めた人々の交流の輪が広がることを目指す。

(4)教育・研究活動支援事業

冒頭でも述べたとおり、2024 年度は学生の活動がより活発になり、学生スタッフ及びセンター登録団体それぞれに精力的に活動が行われた。

・学生スタッフ制度

2023 年度までは、学生ボランティア団体サポート制度において学生スタッフ Seivior はセンター登録団体の一つと位置付けた。しかし、「学生スタッフ制度」の本来の趣旨にそって、2024 年度からセンター登録団体から切り離し、学生支援にかかる課題をセンターと共有し、学生の目線を活かしてセンターと協働・協力する(学生の)スタッフとして位置付けた。

これにあたり、月 1 回行う学生スタッフ及びコーディネーターで行っていたミーティングに、センタースタッフ全員が参加するようにし、専任職員がミーティングの冒頭で共有したい課題等を説明し浸透を図った。

また、公募して採用した学生スタッフの成長を支援するための仕組みを整えた。例えば、学生スタッフの個人の目標設定、学年ごとの成長イメージの設定とそれに連動した年間計画を策定した。また、年間を通じセンターと協働して学生支援に関わるよう新たなチーム体制を設けた。(p. 24 参照)

学生スタッフは、一般学生に対しボラン

ティアを啓発・推進を図る立場にあるため、ボランティア活動を行っていることが望まれる。このため、公募の時点でも経験者及びその意欲がある者を採用している。未経験者には、必要に応じセンター主催の成蹊ボランティアプログラムなどへの参加を推奨している。

・学生ボランティア団体サポート制度（センター登録団体制度）

現在は次の 4 団体となっている。

①学生ボランティア本部 Uni.	504 名
②RootSeikei	96 名
③お芋掘りサークル	50 名
④NoSide (ユニバーサルスポーツボランティア)	20 名

※2024 年 12 月末現在

各団体とも活発な活動を展開し、今年度年次報告書から新たにその活動内容を記録することとした。(pp. 29～42 参照)

ここで特筆すべき点として、今年度学生の活動が活発化した中で、学生スタッフ及びセンター登録団体間で交流する動きがみられ、お互いの活動を知り、ともに本学学生のボランティア活動を盛り上げようという機運が生まれてきた。

今までは個々の団体でしか行っていなかった新入生向け説明会を、学生スタッフの発案によりボランティアガイダンスの第二部として合同で実施した。(p. 23 参照)

また、センター登録団体へのミーティン

グ等にセンタースタッフが出向き、センターの活動内容を周知・広報する機会を設けた。これにより、センターとセンター登録団体との距離もより近くなってきた。

このような働きかけもあり、学生スタッフとセンター登録団体の有志による年 2 回の献血ボランティアが実施された。また、学生スタッフが「ボランティアウィーク」の企画で「ボランティアかるた」を作成した際には、すべての登録団体から協力を得た。

・社会活動支援奨学金

2024 年度は、次の活動が採択された。

- ①体育会水泳部（武蔵野市及び近隣地域を中心とした小・中学校への水球派遣授業）
- ②RootSeikei 震災復興チーム（東日本大震災関連の活動）
- ③個人（能登半島地震に関するボランティア活動）
- ④Seivior 気仙沼チーム！（気仙沼の町づくりに関する活動）
- ⑤学生ボランティア本部 Uni. 東北復興支援プロジェクト（能登半島地震ボランティア）

支給総額は、1,307,095 円の支給であった。

2024 年度においては、必要な時期にめがけて応募できるよう、年間を通じた選考スケジュールを年度初めの段階で周知した。

さらに、例年 3 月末に行う学生の成果報告会は、新 11 号館において高等教育開発・支援センターが主催する「蹊プロジェクト」

の報告と共催で実施し、多くの学内外関係者が参加いただき盛況な会となった。（p. 22 参照）

(5) 各種相談・ガイドラインパス団体

・各種相談

学生個人レベルでの相談、センター登録団体の運営や新たなボランティア活動先の開拓に関する相談が主なものである。コロナ禍が明け本格的に活動が動き出していることもあり、相談件数も増えてきている。（p. 47 参照）

・ガイドラインパス団体

2021 年末にガイドラインを改訂し、運用開始して 3 年目になるが、約 90 団体の登録を認定した（2025 年 3 月末時点）。ボランティア活動を通じて学生の教育的な側面に理解を示し、学生に寄り添ってくれるような団体と多くの繋がりを持ちたい。今後は、コーディネーターと事務職員が連携し、ガイドラインパス団体の更新方法などについて検討をする必要があるだろう。

また、2021 年度に同時に創設した「成蹊ボランティアパートナー団体制度」について、直近 5 年の間で本センターの事業プログラムとの十分な連携実績と教育面での配慮があり、組織として安定している法人を認定しているが、現在は、一般社団法人彩の国子ども・若者支援ネットワーク（通称「アスポート」）の 1 団体のみとなっている。

(6) 広報・情報発信事業

基本的には、センターの HP、大学のポ一

タルサイト（およびサイト内の専用キャビネット）、学内の電子掲示板（6 号館地下、各号館のエレベーター脇モニターなど）が中心で、必要に応じて X（旧 Twitter）などを使っている。

一方で、物理的な掲示板は分散しており、屋内外ともに、学生が必要なボランティア情報を一か所で確認できる場所・環境がない。このため、学生がよく行き来する屋内に、インパクトある情報を流せると効果大きい。このことから、次年度の営繕工事に、学生ラウンジの壁にディスプレイ画面（サイネージ画面）を設置し、ボランティア募集情報や各種イベント等の告知を含め広報できるよう申請を行った。

また、2025 年度から現在のポータルサイトの中のキャビネット機能が廃止されることに伴い、学生へのボランティア募集情報の周知方法の再検討も必要となってきた。

第 2 部 個別報告

第 2 部の個別報告では、ボランティア支援センター規則に定義されている次の事業（p. 3 参照）の中で、2024 年度において代表的な活動を取り上げ具体的な報告を行う。

1) 年間テーマ事業

Seikei Diversity&Inclusion プロジェクト
(p. 11 参照)

- ①成蹊 D&I セミナー「共生社会の実現～見えな
い壁だって超えられる?～」

2) ボランティア活動等の推進

(pp. 12～14 参照)

- ①成蹊ボランティアプログラム (SVP)
- ②はじめてボランティアプログラム
- ③学生による地域連携活動等

3) ボランティア活動等の意識向上・啓発活動

(pp. 15～19 参照)

- ①災害救援ボランティア講座（外部会場）
- ②春のボランティアカフェ
（センター登録団体等紹介）
- ③秋のボランティアカフェ
（教職員の活動事例紹介）
- ④秋のボランティアウィーク
- ⑤学内における献血呼びかけ活動

4) ボランティア活動等の教育研究活動

(pp. 20～26 参照)

- ①ボランティア交流パーティー
- ②社会活動支援奨学金制度
- ③学生の挑戦と共創の場 社会貢献活動×学
生プロジェクト成果報告会
- ④学生ボランティア団体サポート制度

- ⑤ボランティア支援センター学生スタッフ
Seivior

- ⑥ガイドラインパス団体の団体数の増加推進

- ⑦関東地区大学ボランティアセンターネットワ
ーク

- 5) ボランティア活動等の広報及び情報発信

(pp. 27～28 参照)

- ①広報活動の強化

- ②桃李になれ（入学前ガイダンス）への対応

1) 年間テーマ事業「Seikei Diversity&Inclusion プロジェクト (SDI)」-①

成蹊D&Iセミナー 「共生社会の実現～見えない壁だって超えられる?～」

〈ポイントと狙い〉

○成蹊D&I (Diversity & Inclusion) プロジェクトとして、2022年度～2024年度の3年間で「障がい」に焦点を絞り、ボランティア活動の啓発及び推進を図る。

○多くの学生・教職員に「共生社会の実現」について考えてもらうため、イベント等を開催し、年200人、3年間で600人（延べ人数）の参加を目指す。

日 時 2024年12月12日(木)10:40～12:20

場 所 大学5号館102教室

講 師 小林幸一郎 氏
(NPO法人モンキーマジック代表理事)

参加者 287名(学生250名、教職員7名、一般30名)

内 容 最終年度である今年度は、主となるイベントとして、世界的に有名な視覚障害者クライマーで、NPO法人モンキーマジック代表理事である小林幸一郎氏をお招きし、本センターの設立10周年も兼ねた講演会を行った。



NPO法人モンキーマジック代表理事である小林幸一郎氏をお招きし、「成蹊D&Iセミナー 共生社会の実現～見えない壁だって、超えられる?～」と題し、講演会を行った。最初に浅沼副所長より「センターこの10年の歩み」についての説明があり、引き続いて境所長の司会により講演を進めた。

講演では、小林氏の人生やNPO法人の立ち上げの経緯を中心に話があり、その後フリーセッションを行った。

小林氏は、28歳で将来的に失明することが発覚し、33歳でエリック・ウェインマイヤー（視覚障がい者としてはじめてエベレストに登頂した冒険家・作家・活動家）を知り、アメリカの自宅を訪ねた。その時に、クライミングの魅力を通じて共生社会を実現する一役を担うことを決意する。その後、37歳（2005年）の時に武蔵野市で

NPO法人モンキーマジックを立ち上げた。当初はなかなか理解してもらえず苦労をしたが、関連する学会等での発表をきっかけに徐々に活動が広まるようになり、個人としても16歳からクライミングは途切れることなく続け、世界大会でも4連覇をした。

NPO法人では「Be happy, Fun together, Make future」を合言葉に、だれもが自分の心の壁を越えるという活動を展開し、2025年で設立20周年を迎えることとなった。

フリーセッションでは、学生及び一般の参加者より活発な意見交換が行われ、クライミングをやめたいと思ったことがあるか、また氏の信念などについての質問があり、より深く小林氏を知り、共生社会の在り方を考える良い機会となった。（詳細は、本センターHPの該当記事参照）

2) ボランティア活動等の推進①

成蹊ボランティアプログラム(SVP)

〈ポイントと狙い〉

○国内外を取り巻く様々な社会課題について学び、体験し、実践につなげるところまでサポート（エンカレッジ）する。

事例 防災・減災ボランティア

日 時

- ①【事前ガイダンス・事前研修会】
5月22日(水) 17:00～18:00 6号館301教室
- ②【現場体験(まちあるき)】成蹊大学周辺
5月29日(水) 17:00～19:00
6月 4日(火) 15:00～17:00
- ③【振り返り】成蹊大学ボランティア支援センター
6月18日(火) 12:30～13:00
6月19日(水) 12:30～13:00



協 力

【事前研修会】一般社団法人ピースボート災害支援センター 講師:遠藤聡 氏
【ボランティア体験】社会福祉法人武蔵野市民社会福祉協議会
ボランティアセンター武蔵野 講師:三藤和寛 氏

参加者

①12名(オンデマンド視聴1名含む) ②11名 ③12名

内 容

研修会では防災・減災に関する一般知識、平時にできる備えや取り組みに加え、災害ボランティアセンターや災害ボランティアについて説明いただいた。その後、現場体験として2グループに分かれて大学周辺のまちあるきを行った。振り返りとして、まちあるきでの視点をもとに、各自の居住エリアで災害発生時に想定されるリスク等を確認し、対策を検討したレポートを作成した。さらに、お互いの意見や調べた知識を対面で共有した。

災害発生時、自分の身を守るため（自助）に必要な一般知識を身につけると同時に、防災・減災に対する意識を高め、地域の人と協力して助け合う（共助）大切さを学ぶことを狙いとして開催した。

事前研修として、平時にできる備えや取り組みに加え、発災時の対応について能登半島地震を例に説明をしていただき、災害ボランティアへの一步を踏み出すきっかけになるように工夫した。

現場体験では大学周辺のまちあるきを行い、振り返りとして各自の居住エリアで災

害発生時に想定されるリスク等を確認し、対策を検討するレポートを課題とした。自分事として捉えるためのステップを踏み、お互いの意見や調べた知識を共有したことで「より知識を深め、新たな視点や多くの気づきを得ることができた。」との感想につながった。災害時にすべきことや普段からできることを考える機会になっただけでなく、様々な災害ボランティア活動があることを学んだことで、挑戦してみたいという声も聞くことができた。

2) ボランティア活動等の推進②

はじめてボランティアプログラム

〈ポイントと狙い〉

○ボランティアに興味があっても一歩が踏み出せない学生に対し、気軽に参加できるボランティア活動の体験の場を提供する。

○初めて活動する学生が安心して参加できよう、ボランティアコーディネーターが同行し、ともに活動する。

事例 スパイスキット作成ボランティア

日時 11月30日(土) 13:00～16:00

場所 認定NPO法人ESAアジア教育支援の会の事務所

参加者 4名(学生1名、職員3名)

講師 ESA事務局長 辻 丹美氏

内容 ESAはインド・バングラデシュの子どもたちの教育支援の一環で、スパイスキットの販売をしている。そのキット作成のため、数種類のスパイスの計量や袋詰め、賞味期限のシール貼り等の作業を分担して行った。辻氏より、現地の子どもたちを取り巻く状況や、支援によってどのような成果が得られたか等についてのお話を聞いた。



はじめてボランティアに参加する、ひとりで参加するのは不安、といったボランティア初心者の学生を対象に、本年度は3つのプログラムを実施した。

第1弾は、入学式当日、新入生をセンターに呼び込もうという目的も兼ね、認定NPO法人地球の友と歩む会/LIFEの協力のもと、切手貼りボランティアを実施した。これは、寄付された古切手を資金化するために、所定のシートに切手を貼っていく、誰もが気軽にできる国際協力活動である。学生スタッフの熱心な声掛けもあり、13名が参加した。

第2弾は、吉祥寺公園通り商店会が設置している街路のフラワーポットの植え替え作業のボランティアである。5月に実施予定で、6名から応募があったが、当日が雨天となり残念ながら中止となった。

第3弾は、事例で紹介しているスパイスキット作成ボランティアである。食品を扱うため、不織布の帽子やマスク、ビニール手袋、エプロンを身に付けて作業を行った。スパイスのよい香りが満ちた部屋で、参加者はせっせと手を動かしながらも辻氏を交えた会話を楽しみ、香りの癒し効果も享受できる満足度の高い活動となった。

来年度は、より多くの学生が参加するよう活動内容の見直し、広報のタイミングや方法の検討をしていきたい。

一方で、本プログラムはコーディネーターが学生と一緒に活動をする中で会話をする時間を多く取れるので、参加人数にとられ過ぎず、参加した学生ひとりひとりのニーズを捉えて次に繋げられるよう、丁寧な関係づくりを心掛けたい。

2) ボランティア活動等の推進―③

学生による地域連携活動

〈ポイントと狙い〉

○本学が所在する武蔵野市を中心に、近隣地域と連携し、地域貢献に努める。

一例 むさしのプレミアム2024第二次審査会に参加

日 時 2024年11月6日(水) 10:00～11:00

協 力 一般社団法人武蔵野市観光機構

内 容 むさしのプレミアムとは、武蔵野市を代表する魅力的な品々をおみやげとして広く内外にPRし、武蔵野市発の地域ブランドの確立と地域活性化を推進するプロジェクトである。審査会において、本学学生3名が特別審査員として参加し、試食や商品の使用感を確認しながら評価した。

本学では、武蔵野市や近隣地域の諸団体との連携事業を行っている。ゼミ・研究室、演習科目等の正課活動の一環として関わっているものや、体育会・文化会・届出団体など、課外活動として関わっているケースがあり、多くの教職員・学生が様々な活動をしている。詳細は、本学ホームページの「地域連携・成蹊オリパラ」にも掲載されている。

<https://www.seikei.ac.jp/university/aboutus/chiiki/>

ボランティア活動としての関わりは、学生ボランティアサポート制度登録団体による活動が多くを占めている。コロナ禍では、かつての活動先との関係が途絶えていたが、再度、関係性を築き、今では以前に勝るとも劣らない活動を展開している。なお、各団体の活動報告はpp.29～42に掲載している。

本センターでは、成蹊ボランティアプログラムにおけるボランティア体験先の協力依頼、ガイドラインパス団体からのボランティア募集受け付けがあり、それぞれに学生が参加している。

成蹊ボランティアプログラムについて、

今年度に初めて実施した「地域ボランティア」では、大学近隣にあるけやきコミュニティセンター協議会の協力で、毎年行われる「けやきまつり」の運営補助ボランティアを受け入れていただいた。当該協議会から、市民主体の活動や課題、まつりの目的や当日の流れについて事前説明があり、参加後の振り返りに同席いただくなど全面的な協力を得ることができた。その他、「環境ボランティア」では、認定NPO法人生態工房から、「防災・減災プログラム」では、ボランティアセンター武蔵野からそれぞれ協力いただいた。

ガイドラインパス団体（pp.48～53）については、寄せていただいたボランティア募集情報を学生に周知し、参加を促している。イベントの運営補助ボランティア等、気軽に参加できるものもあり、多くの学生が参加した。

2025年度のテーマ事業は「学生×地域社会課題プロジェクト」であるが、2024年秋から活動を開始しており、武蔵野市役所をはじめ、市内の団体等から協力いただいている。今後も地域と連携して充実した活動ができるよう尽力していきたい。

3) ボランティア活動等の意識向上・啓発活動ー①

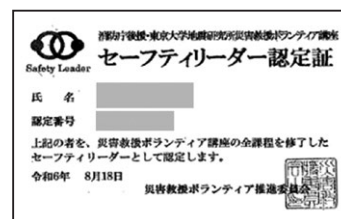
災害救援ボランティア講座(外部会場)

〈ポイントと狙い〉

- 災害を自分事として捉え、災害発生時に適切な行動が取れるようにする。
- 地域の防災対策を知り、身近な人々の命を守る災害の基本的な知識や技能を学ぶ。
- 災害ボランティア活動において被災地での対応を考える。

日 時

- ①7月13日(土)、14日(日)、15日(月)
- ②8月17日(土)、18日(日)、24日(土)
- ③9月6日(金)、7日(土)、8日(日)
- ④2025年2月22日(土)、23日(日)、24日(月)
- ⑤2025年2月22日(土)、3月1日(土)、8日(土)



場 所

- ①座間市消防本部4階 大会議室(神奈川県座間市)
- ②東京大学地震研究所(東京都文京区)、本所防災館(東京都豊島区)
- ③船橋市中央公民館6階 講堂(千葉県船橋市)
- ④座間市消防本部4階 大会議室(神奈川県座間市)
- ⑤立教大学池袋キャンパス、本所防災館(どちらも東京都豊島区)

主催団体

災害救援ボランティア推進委員会

参加者

①1名 ②5名 ③1名 ④1名 ⑤1名 (計9名)

内 容

災害救援ボランティア・災害対策の基本(講義、グループワーク)、
災害模擬体験と実技訓練、
応急手当活動(②⑤では上級救命講習、③では普通救命講習を含む)等

昨年度に引き続き、災害救援ボランティア推進委員会主催の「災害救援ボランティア講座」の受講を促し、参加費10,000円を全額補助した。修了後、振り返りとしてレポート提出と災害救援ボランティア推進委員会より交付される「セーフティリーダー認定証」の提示を義務付けた。

7月から9月にかけて開催された神奈川県座間市、東京大学地震研究所、千葉県船橋市での「災害救援ボランティア講座」を案内し、学生7名の応募があった。想定した参

加人数にまだ余裕があったため、春期休業期間に実施された講座を案内したところ、学生2名から応募があり、計9名が受講した。

受講生からは「被災者目線だけでなく、避難所を運営する目線でも避難所について学ぶことができた。」「日頃から地域の方との関係性を築き、災害時にも自然に助け合うことが多くの人を救う鍵になると実感した。」といった感想があった。

3) ボランティア活動等の意識向上・啓発活動ー②

春のボランティアカフェ(センター登録団体等紹介)

〈ポイントと狙い〉

○主に新入生を対象に、センター登録団体に所属している学生とボランティア支援センター学生スタッフSeiviorが、それぞれ自身の活動や学びを紹介する。

日 時 4月16日(火)、17日(水)、18日(木)、
23日(火)、24日(水) すべて12:30～13:00

場 所 成蹊大学ボランティア支援センター

参加者 のべ60名(学生55名、教職員5名)

対 象 学生・教職員

内 容 ボランティア支援センター学生スタッフSeiviorが司会進行し、前半は登壇者による活動紹介等を行う。後半は登壇者と参加者とが直接質問等を通してコミュニケーションを図る。

協 力 ☐ 【ボランティアの普及・啓発】学生スタッフSeivior
☐ 【地域活動】学生ボランティア本部Uni.
☐ 【国際】RootSeikei
☐ 【農業】お芋掘りサークル
☐ 【ユニバーサルスポーツ】NoSide(ユニバーサルスポーツボランティア)



昨年度は、ボランティアに携わっている学生に加え、幅広い分野の外部団体に登壇していただいたが、参加者の興味関心は学生の話に集中していた。そこで、今年度はセンター登録団体に所属して活動している学生に絞って、春のボランティアカフェを開催した。

4月にボランティアガイダンスの中でセンター登録団体と学生スタッフの活動紹介をし、初めての試みながら、学内で活動できる場と各団体の特徴や魅力を知ることができるとして、大変喜ばれた。しかし、一歩踏み込んだ学生自身の経験や学びについては伝えきれないため、ボランティアカフェとして直接話を聞く機会を設けた。参加者が活動を身近に感じられるように、学生スタッフが司会を担当したり、登壇者の希望にあわせた会場作りを行ったりと、細やかに工夫を凝らした。

ボランティアガイダンスの実施時期と合わせ、相互に広報を行うことで、参加者が増えることも期待して設定したが、ボランティアカフェへの参加者数が大きく伸びることはなかった。学生はボランティアガイダンス＆合同説明会(p.23参照)で必要な情報を得ることができてある程度満足したこと、明確な差別化が図れなかったことが要因と思われる。

登壇した学生は、当日の発表に向けて準備する中で、これまでの体験を改めて振り返り、ボランティア活動に関わる学びについて考え、言語化する機会となった。また、参加した学生は熱心に耳を傾け、活発に質問もしていた。新入生だけでなく、既に活動している学生の参加もあり、「様々な分野に携わることが重要だと感じた。」と新たな活動への意欲にもつなげることができた。

3) ボランティア活動等の意識向上・啓発活動ー③

秋のボランティアカフェ(教職員の活動事例紹介)

〈ポイントと狙い〉

○学生や学外関連団体と並び、教職員が行っているボランティア活動を紹介する場として、本センターが実施する「ボランティアカフェ」が利用できることを教職員に知ってもらういい機会とする。

日 時 11月7日(木) 12:30～13:00

参加者 合計7名(学生4名、教職員3名)

対 象 学生・教職員

内 容 教職員プロジェクトチームにより、「けやき循環プロジェクト」の意義について説明があった後、けやきの枝をつかった「飾り」の作成など、活動を感じ理解を深めるための「ワークショップ」を行った。



秋のボランティアカフェの1つとして、学内で活動が続いているサステナビリティ教育研究センター主催「けやき循環プロジェクト」を取り上げた。関係している教職員プロジェクトチームの皆さん（櫛部紗世さん、長橋典子さん、三好泰子さん、道重智子さん、小野美紀さん）より、その意義の説明と関連するワークショップを実施していただいた。

ボランティアカフェは、スピーカーとして学生及び学外関連団体などが利用することが多い。しかし今回は、学内の教職員が中心になり展開している「けやき循環プロジェクト」を取り上げることとなった。

当日は学生4名と教職員3名が参加し少人数ではあったが、じっくりとこのプロジェクトの説明ができ、参加者は深くその意義

を理解できたと思う。

また、プロジェクトで集めた櫟の枝などを利用し、毛糸を巻き付けてかわいい飾りを作った。この作業を通じ持続可能性について体感し、身近な物を自分で工夫し作り出すことの楽しさも併せて感じる事ができた。とても和気あいあいとした会となった。

参加した学生も楽しそうにワークショップを行い、ボランティアカフェの後半15分間程の短い時間で作品を仕上げていた。また、参加者からは「学内に、小学生から大学生、教職員までもが活動できるサステナビリティ教育研究センターが存在し、そして、このようなプロジェクトができることはとても魅力的だと感じました。」との感想もあった。

3) ボランティア活動等の意識向上・啓発活動ー④

秋のボランティアウィーク

〈ポイントと狙い〉

○ボランティアウィークを通して、学生たちに社会課題を考えるきっかけを与える。

○ボランティア活動の機会を提供し、ボランティアの普及・啓発を行う。

日 時 10月7日(月)～10月11日(金)

場 所 ボランティア支援センター(①,②,③,④モルック)
大学体育館・体育室2(④ボッチャ)
11号館1階プレゼンエリア(⑤)

参加者 のべ142名(学生101名、教職員18名、
学外者23名)

内 容	①おにぎりアクション	(10/7)
	②SDGsすごろく	(10/8)
	③ボランティアかるた	(10/9)
	④ユニバーサルスポーツ大会(モルック・ボッチャ)	(10/10)
	⑤社会人の先輩から学ぶワークショップ&学生交流会	(10/11)



「楽しくボランティアを知る」をテーマに、まだボランティアをしたことがない学生やボランティアについて知らない学生を対象として、社会課題を考えるきっかけを提供するとともに、ボランティア活動に参加する契機となることを目指し、様々なイベントを行った。

気軽に参加できるように、ゲーム感覚のものや複数人で交流できるコンテンツを中心に、ボランティア支援センター学生スタッフSeiviorが企画し、運営まで担った。センター登録団体の代表からも企画案を募集し、オリジナルの「ボランティアかるた」の作成が実現し、団体同士の交流につながった。昨年度まではNoSideがボッチャ・モルック体験会を開催するという形だったが、学生スタッフとの合同企画として実施し、BOCCIA BASE TOKYOや武蔵野市スポーツ推進委員、地域の方も参加する広がりのあるイベントになった。

また、これまでターゲットとしてこなかった留学生にも広報し、実際に参加につながったことは大きな成果であろう。

「おにぎりアクション」では、災害用のお赤飯を利用したおにぎり作りを行った。小豆等の食品が鉄欠乏予防に有効である旨や献血の仕組みや意義についての説明も行い、多方面での学びになるように配慮した。

昨年実施した「SDGsすごろく」は、お昼休みの時間内にゲームが終了できるようにルールや進行を工夫し、盛り上がりを見せた。

「ボランティアかるた」は学生スタッフが中心となり、センター登録団体の協力を得て作成した。なお、外国にルーツのある子ども達に日本語・学習支援をしている公益財団法人東京YWCA武蔵野センターにも協力いただいた。

「社会人の先輩から学ぶワークショップ&学生交流会」は鈴木洋一氏(NPO法人Wake Up Japan)から「社会貢献活動と大学生活について」の講演と、安心して話ができる環境や場づくりについてお話いただいた。参加した他大学生、社会人とも和やかな雰囲気的交流し、多くの刺激を得ることができた。

3) ボランティア活動等の意識向上・啓発活動ー⑤

学内における献血呼びかけ活動

〈ポイントと狙い〉

○学外でのボランティア活動をきっかけに、学生が主体的に始めた活動を支援した。

日 時

【前期】6月11日(火)～6月12日(水)

【後期】12月3日(火)～12月4日(水)

対 象

本館付近

活動参加者

【前期】13名(学生スタッフSeivior、RootSeikei有志学生)

【後期】14名(学生スタッフSeivior、RootSeikei有志学生)

献血協力者

【前期】受付人数154名、採血人数126名

【後期】受付人数114名、採血人数 87名

内 容

東京都赤十字血液センターの献血車による、学内の献血活動について、チラシ配り等の呼びかけ活動を行った。



本活動は、2024年2月に東京武蔵野ロータリークラブ(本センターガイドラインパス団体)が実施した献血活動に、本学学生がボランティアとして参加したことをきっかけに始まった。献血の意義や社会課題をより多くの学生に知ってほしいという趣旨に賛同したセンター登録団体の有志が協力して実現した。

前期は、事前に献血を知るためのワークショップ、SNSでの広報、学生が関わりのある先生方に依頼して授業やゼミでチラシを配布するなど、様々な準備を経て活動を行った。当日は学園のキャラクターである「ピーチくん」に出演依頼した。ピーチくんの効果は絶大で、ピーチくん目当てに足を止めた学生に、写真撮影をしながらチラシを配り、説明をする姿が見られた。

後期は、櫛祭直後のため、準備に時間を割けなかったが、チラシ配りの他、「鉄分おむすび」を発案し、鉄分を多く含む具材

を入れたおむすびを献血協力者に渡すことができた。これは前期に、献血の意志がありながら事前検査によりできなかった学生がいたため、着想を得たとのことである。この提案を東京武蔵野ロータリークラブの関係者が高く評価し、3種類のおむすびを無償提供いただくことになった。なお、おむすび配布にあたり、保管方法や配布方法等について本学保健室から助言を仰いだ。献血事業は、少子高齢化の影響もあり、今後、より困難な状況が予想される。本活動では、社会課題を知り、仲間を集めてアクションできたことと、前回の活動での気づきが次に結びついた点は評価に値する。

この献血呼びかけ活動は、事業主である東京都赤十字血液センターをはじめ、東京武蔵野ロータリークラブの関係者の皆さま、本学保健室の協力と尽力で実現した。紙面をもって、お礼を申し上げる。

4) ボランティア活動等の教育研究活動①

ボランティア交流パーティー

〈ポイントと狙い〉

○学生ボランティア団体同士の横の繋がりが希薄であるという現状を踏まえ、お互いについて知り合うきっかけとなるような交流の場を提供する。

○センターがより身近で利用しやすい存在となるよう、学生ボランティア団体所属の学生とセンタースタッフとが交流し、顔の見える関係性を築く。

日 時 12月17日(火) 17:00～19:00

場 所 大学6号館601会議室

参加者 36名(本学学生・教職員)

主 催 成蹊大学ボランティア支援センター

協 力 ボランティア支援センター学生スタッフSeivior

- 参加団体**
- 学生スタッフSeivior
 - 学生ボランティア本部Uni.
 - RootSeikei
 - お芋掘りサークル
 - NoSide(ユニバーサルスポーツ)



昨年度の同時期には、センターや学生が日頃お世話になっている外部団体の方々をお招きして「学生活動報告会」を開催した。これは、活動報告および外部の方々との交流が中心であったが、今年度は、学生ボランティア団体同士の交流をメインにした「ボランティア交流パーティー」を開催した。

以前より、センターとしては、学生ボランティア団体同士がお互いの存在自体を知らないという状況を何とかしたいとの思いがあった。そこで、外部への発信については別の機会を設けることとし、代表や中心メンバー以外にも広く参加を呼び掛けて実施したイベントである。

企画はセンターが行い、当日の司会・進行やレクリエーション係は学生スタッフSeiviorのメンバーが担った。

各団体から、自団体の特徴や主な活動に

ついて話してもらった後、団体混合のチームをつくり、「ボランティアかるた」と「絵しりとりゲーム」を行った。ボランティアかるたは、学生スタッフが秋に実施した「ボランティアウィーク」の企画の中で、各団体の協力を得て完成させた手作りかるたである。どちらも大変な盛り上がりを見せていた。

飲食をしながら学生同士が自由に交流する時間も設け、そこでは他団体の学生同士が楽しそうに会話する場面も多く見られた。

また、ボランティアかるたの絵札の人気投票を行い、大賞2名、優秀賞1名には景品が贈られた。

団体同士の横のつながりができることで、お互いに影響を与え合い、それぞれの団体の活動の幅が広がっていくことを期待したい。

4) ボランティア活動等の教育研究活動②

社会活動支援奨学金制度

〈ポイントと狙い〉

○地域貢献、調査研究活動等を行う本学学生（個人・団体）に対し、上限20万円の奨学金を給付する。

○資金面での支援のみならず出願時の活動計画立案、予算計画等に関する助言、活動中における相談対応、活動終了後の報告書作成を含む振り返り等、全面的な支援を行う。

社会活動支援奨学金募集・選考に関するスケジュール

日 時	募 集 期 間	2024年4月24日(水)～2025年1月10日(金)
	活動パネル展	5月27日(月)～6月10日(月)
	相 談 会	6月5日(水)・12日(水)・13日(木)
	選 考 日	2024年7月12日(金)・10月11日(金)・11月8日(金)
		12月6日(金)・2025年1月24日(金) 計5回
内 容	選考は、ボランティア支援センター企画執行委員会で行われ、学生から提出された応募書類をもとに協議し、採択する。	
	なお、受給した学生は、活動終了後に所定の書式に基づき活動報告を行い、成果報告会で活動内容を発表する。(p.22)	

社会活動支援奨学金は、COVID-19の影響により、募集停止や応募件数0件の状態が続いていたが、2023年度は、5月8日にCOVID-19が感染症法上の5類に移行したことから、3件の応募があり、全件給付した。今年度は、前年度より2件増加し、5件の活動に対して給付した。

給付数が増加した要因の一つとして、コロナ禍で中断していた、前年度の受給団体による活動パネル展を復活させたことが挙げられる。過去の活動例の紹介は、学生にとって活動のイメージがつかみやすい。2024年度の給付5件のうち、1件はパネル展を見て相談に来た個人による応募であったことから、一定の効果があったといえる。

さらに、利用しやすさを考慮し、例年は、断続的に年3回程度募集をおこなってい

たが、今年度は、年度始めに年間の募集スケジュールを示した。加えて、選考の回数を5回に増やし、活動の対象となる期間を12月末から3月上旬に延長した。このことにより、学生が自身のスケジュールに合わせて計画的に応募できるようになり、さらに春休み中の活動も利用可能となったことから利用の機会が増えた。実際に5件のうち2件は春休み中の活動であった。

なお、2024年は能登半島での大地震で幕開けしたことから、能登半島での支援活動が2件あったのが特徴的であった。

今後の課題として、より多くの学生に制度を利用してもらうことであるが、特に、ボランティア団体以外の団体からの応募と、個人からの応募数を伸ばすことを目指したい。

4) ボランティア活動等の教育研究活動ー③

学生の挑戦と共創の場 社会貢献活動×学生プロジェクト成果報告会

〈ポイントと狙い〉

○本学学生の自主的な活動に対する資金面等の支援として、社会活動支援奨学金制度、蹊プロジェクトがある。今年度初の試みとして、両事業の成果報告会を開催した。

日 時 2025年3月26日(水) 15:00～17:00

場 所 大学11号館ラーニングコモンズ3階イベントエリア

参加者 83名(本学学生・教職員、一般参加者)

主 催 ボランティア支援センター
高等教育開発・支援センター

内 容 第1部 学生×社会貢献活動
ボランティア支援センター
社会活動支援奨学金活動報告
(1) 体育会水泳部水球班
(2) RootSeikei震災復興チーム
(3) 個人参加
(4) 学生ボランティア本部Uni.復興支援プロジェクト
(5) Seivior気仙沼チーム
第2部 学生×プロジェクト
高等教育開発・支援センター 蹊プロジェクト活動報告
(1) クリスの成蹊パンチャれんじ
(2) プレゼンテーションイベントを通じた吉祥寺の街おこし
(3) 成蹊大学アントレプレナー育成プロジェクト
(4) 未来を耕せ!つながるサステナ農園プロジェクト



成蹊大学では、学生の“何かしてみたい”意欲を応援する様々な制度がある。その中でも、ボランティア活動等の社会貢献活動を対象とする「社会活動支援奨学金」、学生主体のプロジェクト活動を対象とする「蹊プロジェクト」は、資金面の支援という共通点があるため、成果報告会を共催という形で開催した。会場となった11号館ラーニングコモンズは、学生の学びの拠点として2024年9月に開設された場所であり、一般参加者も募った初の大型イベントであるため、プレスリリースを出した。当日は、初夏を思わせる陽気の

中、近隣の方、関係機関の方など、80名を超える方々に来場いただいた。

学生たちは、活動の成果や、これからの活動に向けての課題や展望について報告を行い、質疑応答では参加者から様々な質問や感想が寄せられ、活発な意見交換ができた。

閉会後は懇親会を行い、学生や参加者が親睦を深めた。ここでは、学生の活動場所(能登地方、東北地方)にちなんだお菓子や飲み物、蹊プロジェクトでつながりのあるお店のパンも並べられ、和やかな雰囲気ですべてを終えることができた。

4) ボランティア活動等の教育研究活動④

学生ボランティア団体サポート制度

〈ポイントと狙い〉

○学生ボランティア団体が、より活発かつ円滑に活動できるよう、運営等のサポートをする。

○個々の登録団体が連携することにより、本学のボランティア活動全体が盛んになるよう、ネットワークづくりをする。

登録団体

- 成蹊大学学生ボランティア本部Uni.
- RootSeikei
- お芋掘りサークル
- NoSide(ユニバーサルスポーツボランティア)

事例 ボランティアガイダンス&合同説明会

日 時

4月18日(木) 15:00～16:40
4月23日(火) 16:50～18:30

場 所

9号館 102号室

参加者

4月18日(木) 39名 4月23日(火) 20名

内 容

新入生を対象にしたボランティアガイダンスでは、ボランティアの基礎知識等を伝え、ボランティア支援センターについての説明や学生スタッフSeiviorとセンター登録団体の紹介をした。その後の合同説明会では、各団体がブースを設け、個別に新入生からの相談に応じた。



学生ボランティア団体サポート制度では現在4団体が登録しており、センターではさまざまなサポートをしている。相談対応はもとより、ミーティングやイベントの際のスペース提供、物品の貸し出し、各団体の物品の保管スペース提供等、多岐にわたっている。

また、ボランティアハンドブック2024や本センターのホームページに登録団体の紹介を掲載し、学内外に向けてPRをしている。

その他、登録団体所属の学生を対象に、「ボランティアコーディネーション力検定3級」といった外部団体が実施する検定の受検料補助や、ニーズに応じた研修の実施等、学びの機会を提供している。

先述の4団体に本センターの学生スタッフSeiviorを加えた5団体をネットワークングして、本学全体としてのボランティア活動を活性化させることもセンターの目指すところである。それが実現した例を挙げると、今年度は5団体が協力して、新入生向けにボランティアガイダンス&合同説明会を2回実施した。

これまで、新入生は関心のある団体それぞれの説明会に何度も参加しなければならなかったが、今回は5団体が一堂に会しているため、それぞれの特徴や雰囲気と比較しながら一度に知ることができ、たいへん好評であった。

4) ボランティア活動等の教育研究活動ー⑤

ボランティア支援センター学生スタッフSeivior

〈ポイントと狙い〉

○ボランティア支援センターとともに、ボランティア活動の啓発・推進を行う。

○一般学生に向け、イベントの企画・運営、情報の収集・発信を行う。

事例 学生スタッフSeiviorの成長のためのシステム作り

内 容

学生スタッフ制度を運営する中で、学生の成長を促すシステムについて改善し、次年度に向けて始動した。

- ①年間を通じて活動できるチーム体制への変更
- ②チームによる活動目標、年間活動計画の設定
- ③各種フォーマットの活用と振り返りの工夫



本センターには学生スタッフが20名在籍（2025年3月末日時点）し、教職員と協働して、本学学生がボランティアに関心を持つきっかけづくりに取り組んでいる。学生らしいアイデア溢れる企画を立案・実施してきたものの、本センターのミッションや目的等を理解し、向かうべき方向や課題を一緒に考えるという部分は十分ではなかった。

そこで、主にイベントごとに分けられていたチーム体制を、通年で本センターに関われるように「内部充実チーム」、「外部発信チーム」の2つに変更し、イベントについては所属チームに関係なく、プロジェクト形式で行うことにした。これにより、縦の関係を強化し、互いに刺激し合いながら、ますますの成長を目指す。内部充実チームでは、センターの環境整備を主軸にしながら、活動の拠点化に向けた仕組みや具体案を検討・実施し、外部発信チームでは、センターの活動や認知度を高めるためにSNS運用も含めた広報活動を中心として取り組む。

以前より学生スタッフが本センターの認知

度の向上に対する方策を検討してきたが、その一つとして、本センターとして初めて「桃李になれ（入学前ガイダンス）」の動画を作成した。外部発信チームへ所属予定の学生を中心に、動画の構成やBGMの選曲、出演やナレーションと幅広く関わった。

また、活動目標だけでなく年間活動計画もチームごとに設定し、年度を超えてバトンをつなぐ仕組みを整えた。担当したイベントを遂行後、その振り返りを共有するだけに留まることが多かったが、自身が担っている役割について年間を通じて振り返りを重ね、次に生かしていくという流れをつくる。

さらに、個人の振り返りについては、11月に面談を行うだけであったが、3年生引退後、新体制が始動する12月に目標設定をし、年度途中と最後に達成度合いや自身の変化・成長についてシートに記入するようにした。また、活動計画書・活動報告書等のフォーマットも整えた。体験を文字化して整理し、話し合いや発表が中心だった振り返りを充実させる。自分の言葉で語れるように、そして、学びにつなげられるように、彼らの成長をサポートしていきたい。

4) ボランティア活動等の教育研究活動ー⑥

ガイドラインパス団体の登録団体数の増加推進

〈ポイントと狙い〉

○学生に安心・安全なボランティア募集情報を提供するためガイドラインを定め、その基準をパスした団体を「ガイドラインパス団体」という。この登録団体数を増やすことで、学生の多様なニーズに応える事業プログラムの展開ができる。

目標期間 2024年度～2033年度末

内 容 事業プログラムの企画を通じて団体登録を増やすとともに、2025年度からの新たなテーマ事業(学生×地域社会課題プロジェクト)の展開をはじめとして、積極的に登録団体数等を増やす。

ガイドラインパス団体制度は、2021年12月から実施し現在に至っている。実質的には約3年が経過したことになる。2025年3月末現在で約90団体が登録しており（pp.48～53参照）、徐々にその登録数や登録団体の分野も広がりつつある。

学生の多様なニーズに応えるためには、まず毎年度の事業プログラムの作成にあたって新たな分野における関連団体の開拓が挙げられる。特に成蹊ボランティアプログラムは、実践するボランティア分野により該当関連団体を探す必要性があり、そのような掘り起こしを通じて団体数を増やしてきた。

また今後は、地域連携の強化を踏まえ、武蔵野市や近隣地域を中心に、今まで以上に意識的にガイドラインパス団体を増やし

ていきたい。

2025年度から6年間を通じて学生による地域社会課題に取り組むプログラムを新たなテーマ事業として展開することとなった。これを契機に武蔵野市の地域社会課題の把握もより進み、ガイドラインパス団体を増やすきっかけになるだろう。

また一方で、ガイドラインの対象とならない自治体（所管部署）やその関連機関等は「ガイドラインパス相当団体等」と称し、これもボランティア募集を受け付けている。

この両者の数を増やすとともに、関係性を強化していくことも併せて大事になる。

また、今後登録数等が増えてきた場合、管理・運用する体制も検討する必要があるだろう。

4) ボランティア活動等の教育研究活動⑦

関東地区大学ボランティアセンターネットワーク

〈ポイントと狙い〉

○大学のボランティアセンターに関わる職員としての研鑽を積む。

○他大学職員と情報や経験を共有し、ネットワークの強化を図る。

一例 大学・短大等における学生ボランティア活動支援連絡会

日時 12月15日(日) 13:30～17:00

場所 東京ボランティア・市民活動センター

参加者 40名(本学職員3名含む)

参加大学 13校(本学含む)

内容

- 事例発表(青山学院大学のシビックエンゲージメントセンターの元学生スタッフ)
- 「活動への主体的な参加を引き出すには」をテーマに、グループでの意見交換・情報交換



東京ボランティア・市民活動センターが事務局となり、関東地区にある大学のボランティアセンターでネットワークを形成し、年に数回、大学ボランティアセンターの事業や運営における共通の課題や成果を共有し、情報交換や事例検討を行う研究会を開催している。

12月には、ネットワークのメンバーだけでなく中間支援組織の職員や学生など広く参加者を募る「大学・短大等における学生ボランティア活動支援連絡会」が開催された。話し合いに学生からの視点も加わり、新鮮味が感じられた。

事例発表では、青山学院大学のシビックエンゲージメントセンターの元学生スタッフで、プロジェクトリーダーをしていた経験がある方が、当時抱えていた悩みや、それをどのように乗り越えたか等について発表した。

本来、プロジェクトメンバーは主体性を

もって活動に参加しているはずなのに、メンバー間で温度差があり、一体感が感じられない、コミュニケーションが取りづらい、情報共有がうまくいかない等、次々と課題が出てきて自信をなくしたこともあるそう。それでも試行錯誤しながら最後までやり遂げた経験談は、ボランティアコーディネーターにとって共感できる部分が多く、参考になる内容であった。

その後、グループに分かれ、事例発表の内容を踏まえたうえで、「学生の主体的な参加を促すもの」、「学生の主体的な参加を妨げるもの」について話し合った。他大学の学生からのリアルな声が聞けたことは貴重であった。

今後もネットワークを活かし、他大学の取り組みを参考にしたり、課題を共有したりしながら、ボランティアコーディネーターとしての専門性を高めていきたい。

5) ボランティア活動等の広報及び情報発信①

広報活動の強化

〈ポイントと狙い〉

○コロナ禍の影響から、本センターの認知度の回復を図る。

○学生・教職員別に、センターの機能や利用することで得られるメリット等について、効果的に広報を行う。

目標期間 2024年度～2026年度末(3年間)

内容 学生及び教職員対象の支援内容別の明確な方針・方向性を踏まえ、年間で効果的な広報を展開する。また、センターの認知度及び活動内容を浸透させるため、各種方策を検討し実行に移す。

センターの認知度（存在・場所・支援内容など）を上げることにより、ボランティア活動に伴う各種リスクを伝える機会を増やし、学生が安全に活動できるように支援する。

そのためには、本センターの専門的支援が広く活用されるよう、広報を強化することが大事である。これは、本センターの課題である。

まずは、センター登録団体を中心に、本センターの支援内容をよく知ってもらう必要がある。

これに対しては、各団体の総会・ミーティングに参加し、センターの場所や学生にとってメリットがある制度やプログラムについて説明をした。一方的な話にならないように、所属学生の一人に協力してもらい、センタースタッフとの掛け合い形式で

行った。また、その学生からは今までのボランティア経験について語ってもらい、ボランティアの魅力なども直接多くの学生に伝えることができた。これに伴い、センタースタッフと学生との距離が近づいたのは大きな収穫であった。

次に、一般学生に向けた対策については、学生スタッフとともに具体的な検討を行った。

この結果、インパクトある広報方法について、学生の注意をセンターに向けるための「のぼり」の作成などの意見が出た。またその意見をもとに、新入生に本センターの場所や支援内容を印象付けるため、2025年度入学生に向けて入学前ガイダンスのための動画を学生スタッフとともに作成した。（p.28参照）

5) ボランティア活動等の広報及び情報発信②

桃李になれ(入学前ガイダンス)への対応

〈ポイントと狙い〉

○本センターでは、認知度の向上のため、2025年度より桃李になれ（入学前ガイダンス（※））に参加することとした。

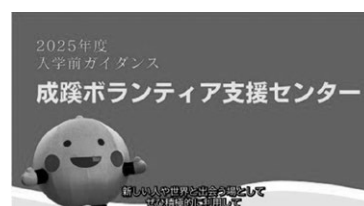
○入学予定者に対して、センターの存在と活用方法などを分かりやすく伝えるため、学生スタッフとともに内容を検討し動画の作成をした。

（※）本学では、2023年度より全入学予定者を対象として、入学時からの大学生活全体を見据えた履修登録を行う意識付けや成蹊大学生としての自覚を促すことを目的に、学生関連部署が参加し入学前ガイダンス(オンデマンド配信、確認アンケート方式)を実施している。

配信期間 2025年3月1日～3月31日
(オンデマンド配信)

対 象 2025年度入学予定者

内 容 新入生に対して、センターとして知っておいてほしい情報を動画としてまとめた。



本センターでは、2025年度より「桃李になれ（入学前ガイダンス）」に参加するため、動画の作成を行った。これは、「広報活動の強化」（p.27参照）の実施例ともなる。

センターでは、今年度から学生スタッフとセンターの課題を共有し、解決に向け検討してきた。この動画の作成は学生スタッフからの発案であり、コーディネーターとともに企画した。学園の人気キャラクターであるピーチくんにも出演依頼し、学生スタッフと共演している。

動画では新入生に知っておいてほしいこととして、センターのアクセス方法(場所)や利用方法、センターが企画するプログラムについて説明し、学生スタッフ制度や学生

ボランティア団体サポート制度について紹介している。また、入学後の新入生向けイベントとして「ボランティアガイダンス」についても触れた。

また、場面に応じ効果的な音声を入れ、センターの主要なプログラムについて、学生スタッフが分かりやすい説明をした。入学時のモチベーションの高い時期を狙った広報として、とてもインパクトのあるものになったと感じている。

今後は、入学前ガイダンスの内容や演出に工夫を加えるとともに、新入生向けのイベントや各種配布物の内容等との連動を図りたい。

第 3 部

学生によるボランティア活動報告

第 3 部は、ボランティア活動に関わる学生の活動として、以下の団体の報告を行う。

1. 学生スタッフ Seivior

成蹊大学ボランティア支援センター学生スタッフ制度は、2020 年度よりはじまった。学生支援に係る事業内容(計画)及び課題等を共有し、センターと連携・協働しながら、学生の立場を活かし、本学学生に対するボランティアの推進・啓発に係る普及活動(広報を含む)を行っている。

センターが抱える課題や学生支援にとって重要な事業を理解し、一般学生やセンター登録団体に所属する学生に向けて、ネットワークづくりや様々な発信をしている。

2. 学生ボランティア団体サポート制度 登録団体

- ・成蹊大学学生ボランティア本部 Uni.
- ・RootSeikei
- ・お芋掘りサークル
- ・NoSide (ユニバーサルスポーツボランティア)

学生ボランティア団体サポート制度は、本学学生が 3 名以上集まり、ボランティア活動、地域・社会貢献活動を行う際に、必要な支援をする。この制度によりできた団体をセンター登録団体という。

具体的には、ソフト面(コーディネーターによる相談およびボランティア情報の提供、団体運営のための各種研修、学内外関

連団体との交流など)及びハード面(センターの利用および団体用の物品 BOX 等の提供など)で支援を行う。

なお、2024 年度からセンター登録団体の活動が安定的に行われ一定の基準に達した団体はセンター登録団体のまま学生部届出団体になり、学生部とセンターの両方で支援する形をとっている。

1. 学生スタッフ Seivior 2020 年 4 月設立

- 1) 団体概要 代表：西川 菜乃 はじボラチームリーダー：小林 彩音
ボラウィークチームリーダー：佐多 結菜 広報チームリーダー：都築 駿
所属人数 20 名（2024 年 12 月末現在）

（学生スタッフとは）

「学生スタッフ Seivior」は、センター内で、学生支援にかかる事業内容（計画）及び課題等を共有し、センターと連携・協働して、学生の立場を活かし、本学学生に対するボランティアの普及・啓発にかかる活動を行います。

2) 2024 年度の活動

（総括）代表 西川 菜乃

(1) 主な活動内容、活動テーマ、重点的に取り込んだことなど

活動テーマは「ボランティアに関心が低い学生や活動に踏み出せない学生の参画」です。学生スタッフ自らが、研修への参加や、イベントの企画運営を行うことで、学生目線からの成蹊大学生へのボランティア活動の普及啓発を目指し、活動しています。

今年度は、「ボランティア活動に踏み出す一歩にする」、「ボランティアを楽しく知る」ことを目的に 2 つのボランティア企画と、ボランティア支援センターに気軽に足を運んでもらうためのセンター環境づくりの提案に重点的に取り組みました。

(2) 活動を通じて得られた成果・学びについて

研修への参加やボランティア企画の運営を通じて、ボランティアに関する知識が身につき、視野が広がったと感じています。これらの活動を通じて、問題発見力やコミュニケーション力、協調性といったスキルが向上したことも大きな成果です。さらに、イベントを通じて、地域の方々、他大学の学生、留学生、外国にルーツを持つ子どもたちなど、多様なバックグラウンドを持つ人々と出会い、一緒に時間を過ごす中で、異なる価値観や文化を理解し、受け入れることの重要性を改めて実感しました。

ボランティア活動を通じて、ただ課題を解決するだけでなく、そこに関わる人々との交流から学びを得ることが大切であると感じました。活動に参加することで、個人として成長すると同時に、社会に対して具体的な貢献ができることの喜びを強く実感しています。今後も、こうした経験を活かして、自分にできる形で社会に貢献していきたいと思います。

(3) 活動における課題、次年度以降の展望について

ボランティア支援センターおよび学生スタッフの知名度が低いことが課題として挙げられます。学生スタッフ主催のボランティア企画への一般学生の参加率は年々上昇している

ものの、依然として少ないと感じられるため、この点を改善していきたいと考えています。

次年度以降は、ボランティア活動をより多くの学生に広め、ボランティア活動と学生との距離を縮めることを目指します。そのために、ボランティア支援センターや学生スタッフの認知度向上を図るとともに、学生が気軽に立ち寄れる環境づくりに取り組んでいきたいと思っています。

※年間を通じ行ってきた主な企画・イベントなど（3つ）

日程	活動場所	参加人数	内容
6 月 22 日	中央コミセン	大学生 7 名	はじめてのボランティア (LEGO®SERIOUSPLAY®メゾットと教材を活用したワークショップ)
7 月 31 日	成蹊大学	大学生 8 名	夏休み MTG（ボッチャ大会・ボラセンの課題解決に関する検討と提案について・SNS アカウント周知方法の検討・櫓祭について）
10 月 7 日から 10 月 11 日	成蹊大学	大学生 48 名 (のべ)	ボラウィーク(おにぎりアクション・SDGs すごろく・ボランティアかるた・ユニバーサルスポーツ大会・社会人の先輩から学ぶワークショップ&学生交流会)

2. 学生ボランティア団体サポート制度登録団体

成蹊大学学生ボランティア本部 Uni. 2009 年 6 月設立

- 1) 団体概要 代表：15 期 山越大輔 副代表：15 期 須田菜々 会計：15 期 兩宮圭吾
所属人数 504 名（2024 年 12 月末現在）
環境チーム TL 上田翔太 146 名 教育チーム TL 織田佳鈴 79 名
国際チーム TL 山根望 30 名 地域チーム TL 相川達 223 名
福祉チーム TL 金井龍之介 26 名
運営組織：企画局長 廣瀬明里 広報局長 天間陽菜 渉外局長 桐生大雅
総務局長 安田隆太郎

（Uni.とは）

幅広い分野のボランティア活動への参加や、ボランティア活動の企画を行っている。次の 5 つのチームで活動を行っており、チームとは別に 6 つのプロジェクト（ゆめはかせ、復興支援、Book for kids、ゆにぶに、古着、Exceed walk）が年間で回っている。

- ①環境チーム：井の頭公園の定期的なごみ拾い、環境保全を考えるワークショップの実施
- ②教育チーム：地域の子どもたちとの交流、子どもたちとの関わりを考えるワークショップの実施
- ③国際チーム：ワークショップ、外国人留学生との交流、ベトナム・ホーチミン市訪問による活動
- ④地域チーム：武蔵野市に密着し、お祭りやイベントスタッフとしての参加、地域活性化の為にイベント企画
- ⑤福祉チーム：武蔵野市周辺の福祉施設への訪問、障がい体験のイベント企画

2) 2024 年度の活動

（総括）代表 山越大輔

一年間を通して、どのチーム、プロジェクトも活発に活動を行いました。活動を通して、外部の方々との新たな関係構築や、長くお世話になっている外部の方々と協力しながらのボランティア活動をすることができました。その中で、多くの人に支えられて Uni.の活動が成り立っているのだと再認識することができました。

今後の課題や展望としては、2 点挙げられます。

一つ目は参加率の向上です。Uni.では、ボランティアの実施が決まると、活動内容に該当するチームやプロジェクトの中で参加者を募って活動に備えていくのが一般的です。この場合には、比較的、参加者を集めやすい状況にあるように思います。それとは別に、チームやプロジェクトを問わず全体に対して参加募集をする活動もありますが、参加者が集ま

りにくいのが実情です。今後は、そのようなチーム等の枠を越えたボランティアにも積極的に参加しやすい環境や制度を整えていきたいと考えます。

二つ目は、活動の広報方法です。より多くの人に Uni.の活動を知ってもらう方法を新たに模索していく必要性を感じています。現在、インスタグラムやXといったSNSを活用していますが、より多く投稿し、かつ多くの人に見てもらいやすいものにする 것도大切です。今後の活動の幅を広げるためにも、広報活動は積極的に行っていきたいと思います。

学内最大のボランティア団体であるという強みを活かした活動や部内での交流、OB・OGとのつながりの強化など、今後、Uni.がより一層盛り上がっていくことを期待しています。

① 環境チーム（文責：TL 上田翔太）

(1) 主な活動内容、活動テーマ、重点的に取り込んだことなど

主な活動内容は、武蔵野市内の定期清掃や環境美化活動などです。環境チームは所属人数が多だけでなく、定期的に行う活動も多くて最も充実しているチームと言えます。このような現状から、「多くの人と環境に触れて活動を盛り上げよう」をテーマに活動してきました。活動が多い分、コアメンバーの参加頻度が高くなり負担に感じることもないよう、より多く参加者を確保して活動したいと考えています。そのため、環境のための活動をするというだけでなく、ボランティアを人との繋がりを深める交流の場として捉え、企画立案を行いました。

(2) 活動を通じて得られた成果・学びについて

活動を通して、環境問題に対して主体的に取り組むことの重要性を実感しました。具体例として、海ボラとフェスボラを挙げます。前者は鎌倉や江ノ島付近の海浜へ行き、砂浜でゴミ拾いをするものでした。破碎したプラスチックゴミが多く、海洋汚染やマイクロプラスチック問題を身近に感じました。後者は、音楽フェスや食フェスなどでゴミステーションに立ち、分別を呼びかけるものです。来場者の中には正しく分別する人もいれば、まとめて捨てる人もいました。大量生産・大量消費のこの時代ならではの廃棄物の量に驚愕し、環境に寄り添った社会の実現にはまだほど遠いことを目の当たりにしました。しかし人々の環境配慮の意識が未だに低いことを実感する一方で、私たちも少しの気遣いで環境への負荷が少ない生活ができることを学ぶことができました。参加したメンバーたちは意識が変わったと話しており、持続的な社会の実現のために取り組まなければならないことが多いと考えるようになりました。

(3) 活動における課題、次年度以降の展望について

課題としては、所属メンバーの意識が全体的には高いといえない状況であることが挙げられます。環境チームは100名強が在籍していますが、実際に活動に参加するメンバーは限られており、大きなイベントのような活動は5割・定期的な活動には3割弱しか参加しませんでした。また、一回活動に参加しても環境問題を主体的に考えるまでには至らないため、なかなかリピートにはつながりませんでした。ただ、継続的に参加していたメンバーの多

第I章 活動報告

くは環境に対する意識が変わっていたので、このような積極的なメンバーを増やすべく、次年度は「①活動に参加したいと思ってもらえるような企画を考える」、「②環境問題を自分事として考え、意識改革できるようなプログラムを多く企画する」といったことに取り組めます。

年間を通じ行ってきた主な企画・イベントなど(3つ) ※参加人数はUni. 所属の学生の人数

日程	活動場所	参加人数	内容
5月26日	成蹊大学周辺	78名	地域清掃・部員間交流
8月8日	由比ヶ浜	60名	海岸清掃・部員間交流
9月28日	北区花火大会	35名	来場者への分別呼びかけ、ゴミの分別・運搬、各ゴミ捨てブース付近のピースキーパー活動

② 教育チーム（文責：TL織田佳鈴）

(1) 主な活動内容、活動テーマ、重点的に取り込んだことなど

ボランティアを通じて地域の子どもたちと触れ合い、地域活動を活発にすることをテーマに、自主的にボランティアに参加したり、主催者の方とつながり自分たちがお祭りの責任者になったりするなど、どのようなかたちでボランティアに参加するかを検討しました。また、どのような場面でいろいろな方々と交流できるかについて考えました。

(2) 活動を通じて得られた成果・学びについて

年齢が離れた初対面の子どもたちにどうしたら楽しんでもらえるのか、話し方や接し方など自分たちで考えながら子どもたちと交流することで、自身の成長につなげました。

また、活動を自主的に行うことによって、責任感やボランティアの楽しさを知る機会を作ることができました。

(3) 活動における課題、次年度以降の展望について

季節ごとのイベントや、一緒に遊ぶことがメインの活動だけでなく、子どもたちと一緒に学んでいくイベントも大切だと思います。今後は、子どもたちの知識を広げていけるようなものを作っていきたいと思っています。

これまで継続してきたボランティアも、引き続き実施していきたいです。

年間を通じ行ってきた主な企画・イベントなど(3つ) ※参加人数はUni. 所属の学生の人数

日程	活動場所	参加人数	内容
5月12日	成蹊大学	50名	部員間交流をメインにしたワークショップ

8月1日	南町コミュニティセンター	20名	夏休みの宿題のサポート、子どもたちとの交流
10月13日	南町コミュニティセンター	10名	毎年恒例の秋祭り（ハロウィンのかぼちゃのモチーフづくり等）

③ 国際チーム（文責：TL山根望）

(1) 主な活動内容、活動テーマ、重点的に取り込んだことなど

今年度の現地ボランティアでは、旅行代理店と交渉を重ね、価格を見直し、内容を大幅に充実させました。なかなか体験できないような現地の人たちとの交流などもあり、参加したメンバーにとって貴重な経験となりました

(2) 活動を通じて得られた成果・学びについて

参加したメンバーの多くは、当初、現地の子どもたちに何かをしてあげるためにボランティアへ行くのだと思っていました。しかし、実際に活動をして気づいたのは、私たちが多くのことを彼らから与えられ、学びを得て帰ってきたということです。

(3) 活動における課題、次年度以降の展望について

所属人数が少ないことが課題です。少人数ゆえに運営や企画が制限されることもあります。しかし、少人数であることは同時に大きな可能性を秘めています。人数が少ないからこそメンバー間の結束が強まり、より密なコミュニケーションや柔軟な意思決定が可能です。次年度以降の展望としては、少人数である強みを最大限に活かし、新たな発想やアイデアを取り入れながら活動を盛り上げていくことを目指します。また、新規メンバーの募集にも力を入れたいと思います。

年間を通じ行ってきた主な企画・イベントなど(3つ) ※参加人数はUni. 所属の学生の人数

日程	活動場所	参加人数	内容
6月2・3日	代々木公園	14名	ごみの分別 ゴミ拾い
9月6～10日	フィリピン セブ島	14名	現地の子どもたちとの交流
9月22日	井の頭恩賜公園	14名	イベントの手伝い

④ 地域チーム（文責：TL相川達）

(1) 主な活動内容、活動テーマ、重点的に取り込んだことなど

活動テーマは「楽しくボランティアに参加しよう」です。

地域チームは最大人数を有するチームですが、それゆえにメンバー間の連携が取りにくい状況があります。そこで、ボランティア参加へのハードルを低くするため、チーム内での交流活動を重視し、メンバー同士の関係をよくすることに注力しました。その結果、ボランティアへ参加しやすい環境にすることができ、多くのメンバーがボランティアの面白

さを実感することができました。

(2) 活動を通じて得られた成果・学びについて

武蔵野地域では、高齢化の進行やコロナ禍の影響で地域の祭りやイベントが減少しました。そのような状況下、団体が地域のために活動したいと思っても、協力を依頼する方法がわからなくなっている現状を知りました。このような課題に対し、Uni地域チームが懸け橋となり、地域住民の交流を活性化させることに貢献できました。このことから、地域社会とのつながりを深める活動の重要性を学びました。

(3) 活動における課題、次年度以降の展望について

地域活動には若い力が必要不可欠であり、学生ボランティアの重要性は今後さらに増していくと感じています。特に、全住民に関わる災害対策においては、日頃から地域住民同士が協力し合える環境を築くことが重要であり、そこで学生ボランティアが多世代間をつなぐ役割を果たせるのではないかと思います。例えば「子ども店長」の取り組みでは、子育て世代と、シニア世代が中心のコミセン祭り運営メンバーとをつなぐ役割ができました。

次年度以降も、ボランティア活動の意義を強く意識し、チーム運営を通じて武蔵野地域への貢献をさらに進めていきたいと思っています。

年間を通じ行ってきた主な企画・イベントなど(3つ) ※参加人数はUni. 所属の学生の人数

日程	活動場所	参加人数	内容
9月14・15日	吉祥寺駅周辺	33名	吉祥寺秋祭りに中道通り商店街として参加（神輿の誘導や水分補給担当）
11月16・17日	本宿コミュニティセンター	10名	本宿コミセン祭りに運営側として参加（子ども店長を実施）
10月27日	元気市（吉祥寺ヨドバシカメラ裏）	6名	元気市に地域チームとして出店し、地域の方々と交流

⑤ 福祉チーム（文責：TL金井龍之介）

(1) 主な活動内容、活動テーマ、重点的に取り込んだことなど

「相手を理解し受け入れる」をテーマに、主に障がい者、高齢者を対象にしたボランティアを行いました。普段関わることがあまりない方たちに対してのボランティアということもあり、チーム内で参加者を集めることに例年苦労していましたが、既存のボランティアを自分たちの能力を発揮できるような内容に変化させ、また新しいボランティアを増やす取り組みによって、今年度は参加率を維持しながら地域に大きく貢献することができました。

(2) 活動を通じて得られた成果・学びについて

活動を通して学んだことは、自分たちのしていることが、本当に高齢者や障がい者を含

む地域の人たちの支えになるということです。毎年10月中旬に緑町パークタウンで開催されている、障がいがある人も楽しめる『あったか祭り』で、例年はいちスタッフとしてお手伝いしていたところを、今年度はUni.として場所を借りて出し物(わなげ)をしたり、特設のステージで音楽ショーやダブルダッチの演技を披露したりしました。それに対して、障がい者の方々は興味を示してくださり、一緒に踊ったり拍手をしたり、とても楽しい時間を共有することができました。地域の方たちからも評価され、来年もお願いしたいとの声を多くいただきました。自分たちの努力が多くの人の笑顔につながるのはとても喜ばしいことで、祭りに参加したメンバー全員がボランティアのすばらしさを学ぶことができたと思います。

(3) 活動における課題、次年度以降の展望について

活動における課題は、所属人数の減少です。例年、福祉チームに入るのは6～10人程度と少ない状況で、来年度以降、人数次第では現在行っているボランティアが実施できなくなる可能性があります。今後、所属人数の増加を目指し対策をすることと、実施するボランティア数の調整をすることが必須であると考えています。

年間を通じ行ってきた主な企画・イベントなど(3つ) ※参加人数はUni. 所属の学生の人数

日程	活動場所	参加人数	内容
2月11日	吉祥寺SOMPOケアデデ イサービス	2名	高齢者と一緒に身体や頭の体操を行う
3月9日	緑町パークタウン	4名	地域で行われているスマホカフェに参加し、高齢者からスマホの使い方 の相談を受ける
8月24日	武蔵野市中央地区商店連 合会	7名	むチュー事務所にて、1日駄菓子屋 さんとして高齢者の相談に乗った り子どもと遊んだりする

RootSeikei 2020 年 2 月設立

- 1) 団体概要 代表名：三根未桜子 副代表 2 名：窪田朔久、山崎颯斗
所属人数 96 名（2024 年 12 月末現在）

（RootSeikei とは）

国際 NGO 団体 Habitat for Humanity に所属し、海外での住居支援活動を行っています。さらに、日本国内でも地域と協力しながらさまざまな活動を行っています。隔週水曜日の定例ミーティングでは、それぞれの興味・関心のある事柄について意見を交換したり、ボランティア活動の計画や報告を行ったりしています。

具体的なボランティア活動としては、フードパントリーや学習支援、長期休暇中には援農や村おこしなどに取り組んでいます。自分自身の興味関心をより広げることのできる学びの多い場所です。

2) 2024 年度の活動

(1) 主な活動内容、活動テーマ、重点的に取り込んだことなど

2024 年は国内でのボランティアを重点的に実施しました。春には、種子島・奄美大島での 2 週間に渡る国内派遣ボランティアを 2 チームに分かれて行い、島の農家の方々のご協力のもと農業ボランティアや村の行事に参加しました。三浦半島でも、三浦大根農家さんの農場で 3 日間お手伝いを行いました。

夏は、各自の興味関心に沿ってチーム分けをし、各ジャンルのボランティアをそれぞれ企画・実施しました。具体的には、こども食堂や国際学習ボランティア、横浜地域創生や海外派遣ボランティアなど、内容は多岐にわたりました。

所属する NGO 団体 Habitat の活動としては、他大学支部の代表・係と連携し、定期的に各大学支部同士の交流・意見交換の場が開かれ、ボランティア意識の向上につながりました。

(2) 活動を通じて得られた成果・学びについて

上記のボランティアを通して、吉祥寺に通学し大学生活を送るだけでは出会うことのなかった多様な方々と出会い、認識することのなかった社会課題に向き合うことが出来ました。常に社会課題に目を向けることをモットーとしていますが、考えるだけで終わっては何も変わらない、ということも学びました。貧困や人手不足、安全面など、学生だけでは解決できない部分もありますが、学生のうちに実際に現場を見て当事者意識を持ち、アプローチ方法を議論していくことが重要であることを実感しています。

(3) 活動における課題、次年度以降の展望について

メンバーの希望するボランティアに対し、資金が足りないことが第一の課題です。国際 NGO 団体に所属していることに加え、国際社会に興味のあるメンバーが多数いるため、海外ボランティアへの派遣を目指していますが、資金繰りに苦労している状況です。資金繰りについて幹部を中心に今一度話し合い、メンバーがより自由にボランティアを行えるよう努める必要があります。

また、春休み・夏休みのボランティアが比較的単発での活動になってしまうことも課題です。リーダーを中心に外部との繋がり維持に努め、また引き継ぎを全体で行うなどして、自分たちの活動欲を満たすだけでなく、一度できたご縁を大切に、丁寧に活動を行っていきたいです。

年間を通じ行ってきた主な企画・イベントなど（3つ）

※参加人数は RootSeieki 所属の学生の人数

日程	活動場所	参加人数	内容
5 月 22 日	成蹊大学	40 名	春ボランティア各チームの報告会&新入生歓迎会
9 月 21 日	成蹊大学	30 名	夏ボランティア各チームの報告会
11 月 16 日	成蹊大学	20 名	国際 NGO 団体 Habitat for Humanity の各支部代表引き継ぎイベント

お芋掘りサークル 2023 年 4 月設立

- 1) 団体概要 代表：齋藤祐希 副代表：羽鳥純平, 澁谷健太, 矢島優太
会計：鈴木颯, 櫻井豪, 杉浦隼祐
所属人数 50 名 (2024 年 12 月末現在)

(お芋掘りサークルとは)

「自分がやりたいと思うこと・楽しいと思うことをやった結果、それが気づいたら人助けになっていた」そんな活動を行っていきたいと考えています。

農業体験に楽しみや興味をもつ人を巻き込み、農業の人手不足の力になることを目指します！また、食料自給率の低下、農業の後継者問題といった社会課題に対して理解を深めます！活動を通して、部員同士の親睦を深めながら、チームワーク・協調性・コミュニケーション能力を培います！

2) 2024 年度の活動

(1) 主な活動内容、活動テーマ、重点的に取り込んだことなど

成蹊小学校から学園内にある畑をお借りして、農作物作りを開始しました。2023 年度は学外の農家さんにお邪魔して作業をしていましたが、場所が遠方であるという理由からあまり参加者が集まらないという課題がありました。2024 年度はその課題を解決すべく、サステナビリティ教育推進センターにご助力いただくことで、学園内にある畑の一角をお借りすることができました。また、サステナビリティ教育研究センターを通して、学内ボランティアや小中高との交流などにも参加しました。

加えて、大学が企画運営する「^{こみち}蹊プロジェクト」にサークルメンバーで構成されるチームで参加し、審査を通過して、現在は正式なプロジェクトとして企画を進めている段階です。このプロジェクト(ミミズコンポスト)を通して、学内連携及び地域連携を進めてまいります。具体的な活動内容としては、株式会社みみずや(長野県飯縄町)と吉祥寺にあるスターバックスコーヒーの店舗と連携し、ミミズコンポストで堆肥を作ることで大学、周辺地域、企業との繋がりを創出することを目指します。

その他櫛祭の出店も行いました。

(2) 活動を通じて得られた成果・学びについて

この一年を通して、当サークルが持つ他との繋がりは前年度と比較して格段に増えました。それにより、これまで出来なかったこと、手を出すことができずにいたことにも挑戦することができました。具体的には、サステナビリティ教育研究センターを通じた成蹊小学校との連携、^{こみち}蹊プロジェクトを通じた企業との提携などを進めることができ、今後の活動内容の拡大に繋がると確信しています。

(3) 活動における課題、次年度以降の展望について

現在抱えている課題として、サークルメンバーの中でモチベーションの高い人と低い人とで二分化されてしまっていることが挙げられます。これを解決するためにも、次年度からはあまりサークルに馴染めていないメンバーも一緒に親睦を深めることのできるようなイベントを増やしていくと共に、新歓でも新規にモチベーションの高いメンバーを募っていきたいと考えています。また、拡大した繋がりを大切に、これまでやったことのないワクワクするような活動も増やしていきたいと考えています。

年間を通じ行ってきた主な企画・イベントなど（3つ）

※参加人数はお芋掘りサークル所属の学生の人数

日程	活動場所	参加人数	内容
年中	学内の畑	35 名	学園内の畑での農作物の栽培
10 月-3 月	成蹊大学	20 名	こみち 蹊プロジェクト「未来を耕せ！サステナ農園プロジェクト」
11 月 23, 24 日	成蹊大学	45 名	櫛祭出店

NoSide（ユニバーサルスポーツボランティア） 2019 年 4 月設立（旧成蹊ボッチャ部）

1) 団体概要 代表：月森陽紀

所属人数 20 名（2024 年 12 月末現在）

（NoSide とは）

ユニバーサルスポーツを通して地域の方々との交流を図ることや、ユニバーサルスポーツの普及を目的に設立しました。主な活動は、外部団体イベントへのボランティア参加、校内での体験会となっています。

「誰でも楽しむことができる」をテーマとし、ボッチャを中心に、扱うスポーツはこれに準じたものに限定しています。人数が少ないので、やりがいを感じられる活動ができます。

2) 2024 年度の活動

(1) 主な活動内容、活動テーマ、重点的に取り込んだことなど

主に部員集めに重点的に取り組みました。

また、ボランティア支援センターの学生スタッフ Seivior との合同企画で、ボッチャ・モルック体験会も行いました。

(2) 活動を通じて得られた成果・学びについて

企画、運営の難しさです。新歓を行わず、一から部員を募集した為、活動の継続が厳しい状況でした。しかし、2024 年度後期には定期的に集まるメンバーを獲得し、11 月・12 月には具体的な活動ができました。

(3) 活動における課題、次年度以降の展望について

ボッチャを中心に活動しようと思っています。ユニバーサルスポーツを学び、普及啓発する上では、まずはメンバー自身がプレイヤーとしてユニバーサルスポーツの楽しさを理解しなければならないと考えたからです。また、武蔵野市がボッチャに力を入れているため、地域交流を通してボランティア活動にも繋がりたいと思います。

年間を通じ行ってきた主な企画・イベントなど（3つ）

※参加人数は NoSide 所属の学生の人数

日程	活動場所	参加人数	内容
6 月 23 日	東京パラスポーツトレーニングセンター	3 名	「BBT オープンボッチャ交流戦」のボランティア
10 月 10 日	体育館 3 階	6 名	Seivior との合同企画「ボラウィーク：ユニバーサルスポーツ大会」
11 月 29 日	コピス吉祥寺店	10 名	新歓交流会

第Ⅱ章

活動実績

1) 2024 年度実績一覧

月日	活動内容	参加者 (名)
4月 1日(月) 4月 3日(水)	課外活動説明会(学生スタッフ Seivior・学生ボランティア団体サポート制度登録団体参加)	-
4月 3日(水)	はじめてボランティアプログラム「切手貼りボランティア」	13
4月 11日(木)	定例ミーティング(オンライン会議)	-
4月 16日(火)～ 4月 24日(水)	春のボランティアカフェ (1) 16日(火) 7名 【地域のボランティア活動】学生ボランティア本部 Uni. (2) 17日(水) 5名 【ボランティア活動の普及活動】ボランティア支援センター学生スタッフ Seivior (3) 18日(木) 10名 【農業ボランティア】お芋掘りサークル (4) 23日(火) 22名 【ユニバーサルスポーツ】NoSide(ユニバーサルスポーツボランティア) (5) 24日(水) 16名 【国際ボランティア】RootSeikei	60
4月 18日(木) 4月 23日(火)	ボランティアガイダンス&合同説明会(学生スタッフ Seivior・学生ボランティア団体サポート制度登録団体)	59
4月 19日(金)	第1回企画執行委員会(オンライン会議)	-
4月 24日(水)	社会活動支援奨学金募集開始	-
5月 10日(金)	定例ミーティング(オンライン会議)	-
5月 15日(水)	成蹊ボランティアプログラム(SVP)「地域ボランティア」ガイダンス・事前研修会	14
5月 17日(金)	第2回企画執行委員会(オンライン会議)	-
5月 19日(日)	成蹊ボランティアプログラム(SVP)「地域ボランティア」ボランティア体験・振り返り 於：けやきコミュニティセンター	14
5月 20日(月)	はじめてボランティアプログラム「吉祥寺のまちづくり！フラワーポット植替え」 於：吉祥寺駅周辺 ※吉祥寺公園通り商店会フラワーポットの植え替え作業に参加(雨天中止)	-
5月 21日(火)	成蹊ボランティアプログラム(SVP)「環境ボランティア」ガイダンス・事前研修会	9
5月 22日(水)	成蹊ボランティアプログラム(SVP)「防災・減災ボランティア」ガイダンス・事前研修会	12
5月 26日(日)	成蹊ボランティアプログラム(SVP)「環境ボランティア」ボランティア体験・振り返り 於：井の頭恩賜公園	6
5月 27日(月)～ 6月 10日(月)	ボランティア支援センター活動パネル展	-
5月 29日(水)	成蹊ボランティアプログラム(SVP)「地域ボランティア」振り返り(オプションとして実施)	12
5月 29日(水) 6月 4日(火)	成蹊ボランティアプログラム(SVP)「防災・減災ボランティア」現場体験(まちあるき)	11
6月 5日(水)	ランチタイム手話教室	10
6月 5日(水) 6月 12日(水) 6月 13日(木)	社会活動支援奨学金相談会	0
6月 7日(金)	定例ミーティング(オンライン会議)	-
6月 11日(火) 6月 12日(水)	学内における献血呼びかけ活動	13

第Ⅱ章 活動実績

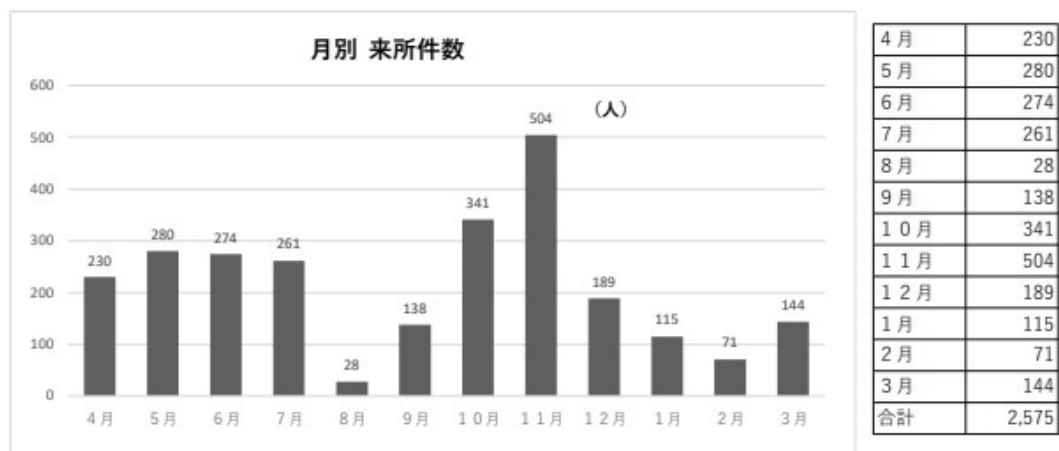
月日	活動内容	参加者 (名)
6月11日(火) 6月20日(木)	夏のボランティアカフェ～国際ボランティア編～ (1) 11日(火) NPO 法人 NICE 4名 (2) 20日(木) 認定 NPO 法人 CFF ジャパン 7名	11
6月12日(水)	第1回運営委員会(オンライン会議)	-
6月14日(金)	第3回企画執行委員会(オンライン会議)	-
6月18日(火) 6月19日(水)	成蹊ボランティアプログラム(SVP)「防災・減災ボランティア」振り返り	12
6月22日(土)	はじめてボランティアプログラム「地域との関わり方をカタチにする ～LEGO®SERIOUS PLAY®メソッドと教材を活用したワークショップ～」 於：中央コミュニティセンター	15
6月27日(木)	社会活動支援奨学金 第1回応募締切日	-
7月5日(金)	定例ミーティング(オンライン会議)	-
7月12日(金)	第4回企画執行委員会(オンライン会議)	-
7月13日(土)～ 7月15日(月)	災害救援ボランティア講座 於：座間市消防本部 災害救援ボランティア推進委員会主催の講座に参加	1
8月1日(木)	ノートテイク講習会(大学ノートテイクプロジェクトの担当として運営)	25
8月17日(土) 8月18日(日) 8月24日(土)	災害救援ボランティア講座 於：東京大学地震研究所、本所防災館 災害救援ボランティア推進委員会主催の講座に参加	5
9月6日(金)	定例ミーティング(オンライン会議)	-
9月6日(金)～ 9月8日(日)	災害救援ボランティア講座 於：船橋市中央公民館 災害救援ボランティア推進委員会主催の講座に参加	1
9月13日(金)	第5回企画執行委員会(オンライン会議)	-
9月25日(水) 9月26日(木)	成蹊ボランティアプログラム(SVP)「学習支援ボランティア」ガイダンス・ 事前研修会	22
9月27日(金)	社会活動支援奨学金 第2回応募締切日	-
10月1日(火)～ 10月31日(木)	成蹊ボランティアプログラム(SVP)「学習支援ボランティア」ボランティ ア体験期間	11
10月2日(水)～ 10月8日(火)	第2回運営委員会(メール会議)	-
10月4日(金)	定例ミーティング(オンライン会議)	-
10月7日(月)～ 10月11日(金)	秋のボランティアウィーク (1) 7日(月) おにぎりアクション 18名 (2) 8日(火) SDGs すごろく 16名 (3) 9日(水) ボランティアかるた 23名 (4) 10日(木) ユニバーサルスポーツ大会① モルック 22名 (5) 10日(木) ユニバーサルスポーツ大会② ボッチャ 36名 (6) 11日(金) 社会人の先輩から学ぶワークショップ&学生交流会 27名	142

月日	活動内容	参加者 (名)
10月11日(金)	第6回企画執行委員会(オンライン会議)	-
10月21日(月)	成蹊ボランティアプログラム(SVP)「ユニバーサルな社会を考える」事前ガイダンス	14
10月25日(金)	社会活動支援奨学金 第3回応募締切日	-
10月28日(月) 10月30日(水) 11月26日(火)	成蹊ボランティアプログラム(SVP)「学習支援ボランティア」振り返り・活動報告	11
10月28日(月)	成蹊ボランティアプログラム(SVP)「ユニバーサルな社会を考える」ユニバーサルマナー検定3級受講	37
10月29日(火) 11月7日(木)	秋のボランティアカフェ (1) 10月29日(火) 海外編～成蹊生による活動報告～ 19名 (2) 11月7日(木) けやき循環プロジェクト 7名	26
10月31日(木)	成蹊ボランティアプログラム(SVP)「福祉ボランティア」ガイダンス・事前研修	7
11月1日(金)	定例ミーティング(オンライン会議)	-
11月5日(火) 11月7日(木) 11月14日(木)	成蹊ボランティアプログラム(SVP)「ユニバーサルな社会を考える」ボランティア体験 於: 社会福祉法人武蔵野 デイセンター山びこ	3
11月8日(金)	第7回企画執行委員会(オンライン会議)	-
11月8日(金) 11月29日(金)	成蹊ボランティアプログラム(SVP)「ユニバーサルな社会を考える」ボランティア体験 於: NPO 法人 KITARU 就労支援センターKITARU	8
11月17日(日)	成蹊ボランティアプログラム(SVP)「福祉ボランティア」ボランティア体験・振り返り 於: 新宿 NPO 協働推進センター	5
11月21日(木)	社会活動支援奨学金 第4回応募締切日	-
11月22日(金)～ 11月25日(月)	櫛祭(学生スタッフ Seivior 参加)	-
11月26日(火) 11月28日(木)	成蹊ボランティアプログラム(SVP)「ユニバーサルな社会を考える」 於: 公益財団法人武蔵野市福祉公社 北町高齢者センター	4
11月30日(土)	はじめてボランティアプログラム「スパイスキット作成ボランティア」	4
12月1日(日)	学生スタッフ Seivior 自主企画(外国にルーツのある子ども達とのイベント)	22
12月3日(火)	定例ミーティング(オンライン会議)	-
12月3日(火) 12月4日(水)	学内における献血呼びかけ活動	14
12月5日(木) 12月6日(金) 12月10日(火)	成蹊ボランティアプログラム(SVP)「ユニバーサルな社会を考える」振り返り・活動報告	14
12月6日(金)	第8回企画執行委員会(オンライン会議)	-
12月12日(木)	成蹊 D&I セミナー「共生社会の実現～見えない壁だって超えられる?～」	287
12月17日(火)	ボランティア交流パーティー	36
1月10日(金)	社会活動支援奨学金第5回応募締切日(2024年度最終)	-
1月17日(金)	定例ミーティング(オンライン会議)	-
1月24日(金)	第9回企画執行委員会(オンライン会議)	-

第Ⅱ章 活動実績

月日	活動内容	参加者 (名)
1月31日(金)	ノートテイク講習会(大学ノートテイクプロジェクトの担当として運営)	19
2月20日(木)	定例ミーティング(オンライン会議)	-
2月22日(土)～ 2月24日(月)	災害救援ボランティア講座 於:座間市消防本部 災害救援ボランティア推進委員会主催の講座に参加	1
2月22日(土) 3月1日(土) 3月8日(土)	災害救援ボランティア講座 於:立教大学池袋キャンパス、本所防災館 災害救援ボランティア推進委員会主催の講座に参加	1
2月28日(金)	第10回企画執行委員会(オンライン会議)	-
3月19日(水)	第3回関東地区大学ボランティアセンター学生スタッフ交流会参加 於:立教大学池袋キャンパス	6
3月26日(水)	学生の挑戦と共創の場 社会貢献活動×学生プロジェクト成果報告会	83
3月31日(月)	定例ミーティング(対面)	-

2) 相談実績



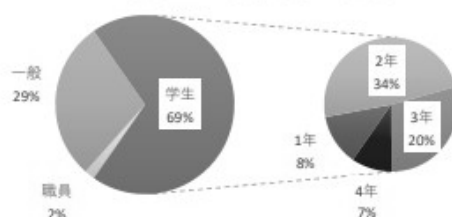
属性別相談（来所）件数

	相談件数
1年	14
2年	55
3年	33
4年	11
院	4
職員	3
一般	47
計	167

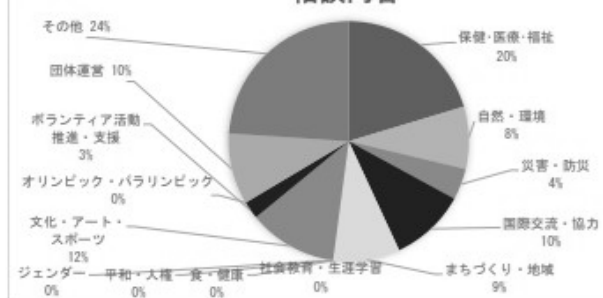
分野別相談（来所）件数

	学生	教職員・一般	計
相談件数	117	50	167
保健・医療・福祉	22	12	34
自然・環境	12	2	14
災害・防災	7	0	7
国際交流・協力	15	2	17
まちづくり・地域	5	10	15
社会教育・生涯学習	0	0	0
食・健康	0	0	0
平和・人権	0	0	0
ジェンダー	0	0	0
文化・アート・スポーツ	14	6	20
ボランティア活動推進・支援	3	1	4
オリンピック・パラリンピック	0	0	0
団体運営	16	0	16
その他	23	17	40

属性別 相談者の割合



相談内容



3) 成蹊ボランティアパートナー団体制度 承認団体一覧

団体名	分野	承認日
一般社団法人彩の国子ども・若者支援ネットワーク (埼玉県さいたま市)	子ども	2022 年 2 月 18 日

4) ガイドラインパス団体一覧

2024 年度 総数 83 団体 (追加 23 団体)

番号	団体名	分野
G001	一般社団法人彩の国子ども・若者支援ネットワーク	子ども；
G002	府中市市民活動センタープラッツ	中間支援；
G003	NPO 法人ビーグッドカフェ	子ども・青少年；自然・環境；教育；
G004	NPO 法人 A SEED JAPAN	人権；自然・環境；平和；貧困；
G005	認定 NPO 法人地球の友と歩む会/LIFE	子ども・青少年；教育；貧困；国際協力・交流・支援；自然・環境；
G006	認定 NPO 法人こっこつ	障がい児・障がい者；社会教育・生涯学習；居場所づくり；教育；
G007	新宿区立新宿 NPO 協働推進センター	中間支援；
G008	認定 NPO 法人 JUON NETWORK	自然・環境；
G009	吉祥寺公園通り商店会	地域活性化・まちづくり；
G010	認定 NPO 法人難民を助ける会 (AAR Japan) / エーエーアール・ジャパン	障がい児・障がい者；子ども・青少年；人権；教育；社会教育・生涯学習；平和；貧困；国際協力・交流・支援；食・健康；災害・防災・被災地；
G011	NPO 法人野外遊び喜び総合研究所	子ども・青少年；教育；社会教育・生涯学習；居場所づくり；地域活性化・まちづくり；
G012	NPO 法人荒川クリーンエイド・フォーラム	子ども・青少年；自然・環境；中間支援；

G013	公益財団法人東京 YWCA 武蔵野センター	子ども・青少年;高齢者;障がい児・障がい者;人権;教育;居場所づくり;平和;国際協力・交流・支援;
G014	NPO 法人プラネットカナル	子ども・青少年;人権;貧困;
G015	NPO 法人 Pigeon	障がい児・障がい者;居場所づくり;スポーツ;地域活性化・まちづくり;子ども・青少年;
G016	NPO 法人 NICE (日本国際ワークキャンプセンター)	子ども・青少年;高齢者;障がい児・障がい者;人権;教育;社会教育・生涯学習;居場所づくり;医療;平和;貧困;食・健康;国際協力・交流・支援;自然・環境;災害・防災・被災地;文化・芸術;スポーツ;動物愛護;地域活性化・まちづくり;中間支援;その他;
G017	NPO 法人 NPO サポートセンター	中間支援;
G018	NPO 法人 Learning for All	子ども・青少年;教育;居場所づくり;貧困;
G020	一般社団法人日本スポーツウェルネス吹矢協会	子ども・青少年;高齢者;障がい児・障がい者;社会教育・生涯学習;居場所づくり;教育;食・健康;国際協力・交流・支援;文化・芸術;スポーツ;地域活性化・まちづくり;その他;医療;災害・防災・被災地;
G021	認定 NPO 法人プラチナ美容塾	高齢者;障がい児・障がい者;
G022	認定 NPO 法人豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク	子ども・青少年;居場所づくり;人権;教育;貧困;食・健康;地域活性化・まちづくり;
G023	認定 NPO 法人ブリッジ エーシア ジャパン (BAJ)	子ども・青少年;人権;教育;平和;貧困;国際協力・交流・支援;
G024	社会福祉法人さぽうと 21	国際協力・交流・支援;子ども・青少年;教育;居場所づくり;人権;平和;貧困;
G025	NPO 法人ペピータ	障がい児・障がい者;文化・芸術;地域活性化・まちづくり;その他;
G026	認定 NPO 法人ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン	子ども・青少年;高齢者;障がい児・障がい者;貧困;災害・防災・被災地;国際協力・交流・支援;
G027	NPO 法人樹木・環境ネットワーク協会	子ども・青少年;自然・環境;

第Ⅱ章 活動実績

G028	認定 NPO 法人文化学習協同ネットワーク	子ども・青少年;教育;社会教育・生涯学習; 居場所づくり;地域活性化・まちづくり;
G029	NPO 法人 KITARU	障がい児・障がい者;社会教育・生涯学習;
G030	NPO 法人みかんぐみ	障がい児・障がい者;
G031	NPO 法人 good! (グッド)	子ども・青少年;居場所づくり;国際協力・ 交流・支援;
G032	社会福祉法人武蔵野 デイセンター山びこ	障がい児・障がい者;
G033	社会福祉法人東京栄和会 なぎさ和楽 苑	高齢者;障がい児・障がい者;居場所づく り;地域活性化・まちづくり;
G034	きりん塾	高齢者;社会教育・生涯学習;居場所づく り;食・健康;文化・芸術;地域活性化・ま ちづくり;
G035	チャイルド・ファンド・ジャパン	子ども・青少年;人権;教育;居場所づくり; 貧困;平和;食・健康;国際協力・交流・支 援;災害・防災・被災地;自然・環境;
G036	一般社団法人横河武蔵野スポーツクラ ブ	子ども・青少年;高齢者;障がい児・障がい 者;教育;社会教育・生涯学習;医療;食・健 康;スポーツ;地域活性化・まちづくり;
G037	株式会社 Criacao	子ども・青少年;教育;貧困;人権;
G038	株式会社アメディア	障がい児・障がい者;地域活性化・まちづ くり;
G039	NPO 法人チャリティサンタ	子ども・青少年;貧困;
G040	NPO 法人湘南自然学校	子ども・青少年;
G041	けやきコミュニティ協議会	子ども・青少年;高齢者;社会教育・生涯学 習;居場所づくり;災害・防災・被災地;地 域活性化・まちづくり;スポーツ;
G043	NPO 法人みたか都市観光協会	地域活性化・まちづくり;
G044	トヨタモビリティ東京株式会社	地域活性化・まちづくり;災害・防災・被 災地;スポーツ;文化・芸術;教育;高齢者; 子ども・青少年;障がい児・障がい者;自 然・環境;

G045	NPO 法人西東京市多文化共生センター	子ども・青少年;教育;社会教育・生涯学習; 居場所づくり;平和;国際協力・交流・支援; 地域活性化・まちづくり;災害・防災・被災地;人権;
G046	NPO 法人地球緑化センター	子ども・青少年;自然・環境;地域活性化・まちづくり;
G047	三鷹市東多世代交流センター	子ども・青少年;高齢者;社会教育・生涯学習; 地域活性化・まちづくり;
G048	三鷹市井の頭地区住民協議会	子ども・青少年;高齢者;社会教育・生涯学習; 居場所づくり;食・健康;災害・防災・被災地; 文化・芸術;スポーツ;地域活性化・まちづくり;
G049	吉祥寺北コミュニティ協議会	子ども・青少年;高齢者;障がい児・障がい者; 人権;教育;社会教育・生涯学習;居場所づくり; 医療;平和;貧困;食・健康;国際協力・交流・支援; 自然・環境;災害・防災・被災地;文化・芸術; スポーツ;動物愛護;地域活性化・まちづくり; 中間支援;
G050	公益財団法人大阪ユースホステル協会	子ども・青少年;国際協力・交流・支援;文化・芸術;
G051	公益財団法人東京都教育支援機構 (TEPRO)	子ども・青少年;国際協力・交流・支援;教育; 障がい児・障がい者;文化・芸術;
G052	BOCCIA BASE TOKYO (ボッチャ ベース トーキョー)	子ども・青少年;高齢者;障がい児・障がい者; 居場所づくり;スポーツ;地域活性化・まちづくり;
G053	東京武蔵野ロータリークラブ	子ども・青少年;人権;教育;平和;国際協力・交流・支援; 地域活性化・まちづくり;
G054	はじまりの場所	子ども・青少年;教育;居場所づくり;貧困; 地域活性化・まちづくり;
G055	練馬区立関町リサイクルセンター	子ども・青少年;高齢者;教育;社会教育・生涯学習; 自然・環境;地域活性化・まちづくり;
G056	一般社団法人ユメ・フルサト	子ども・青少年;教育;社会教育・生涯学習; 食・健康;自然・環境;地域活性化・まちづくり;
G057	西東京市田無公民館	障がい児・障がい者;社会教育・生涯学習; 居場所づくり;
G058	認定 NPO 法人生態工房	子ども・青少年;高齢者;教育;社会教育・生涯学習; 自然・環境;文化・芸術;

第Ⅱ章 活動実績

G059	ジモッピーネット	社会教育・生涯学習;教育;子ども・青少年; 自然・環境;地域活性化・まちづくり;
G060	NPO 法人 BORDER FREE	子ども・青少年;教育;居場所づくり;
G061	NPO 法人朝日キャンプ	子ども・青少年;障がい児・障がい者;
G062	一般社団法人武蔵野青年会議所	子ども・青少年;国際協力・交流・支援;災 害・防災・被災地;スポーツ;地域活性化・ まちづくり;文化・芸術;
G063	公益財団法人社会教育協会ひの社会教 育センター	子ども・青少年;障がい児・障がい者;高齢 者;教育;社会教育・生涯学習;自然・環境; スポーツ;
G064	一般社団法人ピースボート災害支援 センター	自然・環境;災害・防災・被災地;
G065	認定 NPO 法人 CFF ジャパン	子ども・青少年;人権;教育;社会教育・生 涯学習;居場所づくり;平和;貧困;国際協 力・交流・支援;
G066	青少年問題協議会井之頭地区委員会	子ども・青少年;
G067	関前コミュニティ協議会	社会教育・生涯学習;居場所づくり;食・健 康;地域活性化・まちづくり;
G068	NPO 法人アクション	子ども・青少年;教育;社会教育・生涯学習; 貧困;食・健康;国際協力・交流・支援;ス ポーツ;
G069	NPO 法人モンキーマジック	障がい児・障がい者;スポーツ;
G070	NPO 法人 Pista	子ども・青少年;居場所づくり;
G071	社会福祉法人東京光の家	障がい児・障がい者;
G072	NPO 法人湘南マリンオーガニゼーショ ン	子ども・青少年;障がい児・障がい者;居場 所づくり;自然・環境;スポーツ;地域活性 化・まちづくり;高齢者;
G073	認定 NPO 法人カタリバ	子ども・青少年;教育;居場所づくり;
G074	NPO 法人ハモニカ横丁東京	居場所づくり;地域活性化・まちづくり;文 化・芸術;食・健康;
G075	一般社団法人武蔵野市スポーツ協会	子ども・青少年;高齢者;スポーツ;地域活 性化・まちづくり;
G076	武蔵野の森を育てる会	社会教育・生涯学習;自然・環境;地域活性 化・まちづくり;子ども・青少年

G077	NPO 法人ピアサーポートネットしぶや	子ども・青少年;障がい児・障がい者;人権; 教育;社会教育・生涯学習;居場所づくり; 貧困;食・健康;災害・被災地;文化・芸術; スポーツ;地域活性化・まちづくり;中間支 援;
G078	一般社団法人 SEM	子ども・青少年;教育;食・健康;地域活性 化・まちづくり;
G079	NPO 法人 森づくりフォーラム	教育;社会教育・生涯学習;食・健康;自然・ 環境;地域活性化・まちづくり;災害・防 災・被災地;
G080	認定 NPO 法人 ESA アジア教育支援の会	子ども・青少年;人権;教育;貧困;食・健康; 国際協力・交流・支援;
G081	西東京レスキューバード	地域活性化・まちづくり;災害・防災・被 災地;
G082	NPO 法人りんご村	障がい児・障がい者;
G083	NPO 法人 iPledge	自然・環境;文化・芸術;
G084	公益社団法人東京都盲人福祉協会	障がい児・障がい者;
G085	一般社団法人まるオフィス	子ども・青少年;教育;社会教育・生涯学習; 中間支援;地域活性化・まちづくり;

5) 成蹊ボランティアプログラム（SVP）実施報告

成蹊ボランティアプログラム（SVP）は、本センターが企画するボランティアプログラムである。事前研修、ボランティア体験、振り返りの一連の流れをパッケージ化することで、社会課題にじっくり向き合い、自ら学びや気づきを得ることを目的としている。

各プログラム修了者のうち、継続的に活動をしている学生に対し、ボランティア支援センター所長より表彰した。

詳細については、第Ⅰ章第2部の個別報告もあわせてご覧いただきたい。

成蹊ボランティアプログラム活動一覧

名 称	地域ボランティア	修了者数	14 名
概 要	まちづくりの一環として、コミュニティづくりを進めることを目的に開催している「けやきまつり」の運営に参加する。大学のある武蔵野市において、地域住民の方を中心に進められている活動やその課題を学び、理解を深める。		
内 容	第1回 事前ガイダンス・事前研修 第2回 ボランティア体験・現地での振り返り 第3回 振り返り（オプションとして実施） ※第2回終了後にアンケートを提出。 ※アンケート回答までを修了要件としていたが、今後に向けたきっかけづくりとして、昼食をとりながら、お互いの体験や課題を共有して交流する場を設けた。		
協力団体	けやきコミュニティ協議会		
名 称	環境ボランティア	修了者数	6 名
概 要	井の頭池における環境保全活動に参加し、環境問題についての関わり方の視点を学ぶ。作業後は、園内（池畔）に生息する生物や自然の観察をしながら、かいぼり後の変化や自然再生の取り組みについての説明を受け、活動への理解を深める。		
内 容	第1回 事前ガイダンス・事前研修 第2回 ボランティア体験 / 現地での振り返り ※第2回終了後にアンケートを提出。		
協力団体	認定 NPO 法人生態工房		
名 称	防災・減災ボランティア	修了者数	12 名
概 要	災害発生時、自分の身を守るため（自助）に必要な一般知識を身につけると同時に、防災・減災に対する意識を高め、地域の人と協力して助け合う（共助）大切さを学ぶ。災害ボランティアについての知識を得ると同時に、災害発生を想定して大学近辺のまちあるきを行い、自分事として捉え、減災に向けてできることを考える。		
内 容	第1回 事前ガイダンス・事前研修 第2回 現場体験（まちあるき） 第3回 振り返り ※第2回終了後に個別での振り返りとして、まちあるきでの視点をもとに、各自の居住エリアで災害発生時に想定されるリスク等を確認し、対策を検討するレポートを提出。 ※第3回終了後にアンケートも提出。		

協力団体	【事前研修】 一般社団法人ピースボート災害ボランティアセンター 【現場体験（まちあるき）】 社会福祉法人武蔵野市民社会福祉協議会 ボランティアセンター武蔵野		
名 称	学習支援ボランティア	修了者数	11 名
概 要	学習支援が必要な子どもの背景や社会課題について研修で学び、勉強を教えるだけでなく、一人ひとりに寄り添うことが大切であることを実際に体験する。		
内 容	第1回 事前ガイダンス・事前研修 第2回 ボランティア体験 第3回 振り返り・活動報告 ※第2回終了後にアンケートを提出。		
協力団体	一般社団法人彩の国子ども・若者支援ネットワーク		
名 称	福祉ボランティア	修了者数	7 名
概 要	重度障がい当事者の方とご家族・支援者の方の団体が企画するイベントと一緒に運営し、どういった思いで活動されているのかを考えるきっかけにする。相手を尊重して接することを学び、共生社会の実現に向け、理解を深める。		
内 容	第1回 ガイダンス・事前研修 第2回 ボランティア体験・現地での振り返り ※第2回終了後にアンケートを提出。		
協力団体	認定 NPO 法人こつこつ		
名 称	ユニバーサルな社会を考える	修了者数	14 名
概 要	ユニバーサルマナー検定（3 級）を受講後、福祉施設における障がい者や高齢者との交流や活動体験を通して、ユニバーサルな社会への理解を深める。		
内 容	第1回 事前ガイダンス 第2回 ユニバーサルマナー検定（3 級） 第3回 ボランティア体験 第4回 振り返り・活動報告 ※第4回終了後、アンケートを提出。 ※一般社団法人日本ユニバーサルマナー協会が認定する「ユニバーサルマナー検定 3 級」を取得した（本プログラム修了者は受検料を全額補助）。		
協力団体	【ユニバーサルマナー検定】 一般社団法人日本ユニバーサルマナー協会 株式会社ミライロ 【ボランティア活動先】 社会福祉法人武蔵野 デイセンター山びこ NPO 法人 KITARU 就労支援センターKITARU 公益財団法人武蔵野市福祉公社 北町高齢者センター		

6) 社会活動支援奨学金実績

	種類 ※	活動名称 団体名	活動内容	支給額 (円)
1	A	水球派遣授業	日 程：2024 年 6 月～9 月 活 動 地：武蔵野市及び近隣地域を中心とし た小・中学校 活動分野：子ども 文化・アート・スポーツ	400,000
		体育会水泳部		
2	A	2024 夏季気仙沼・南三陸・石巻 自助共助体験伝承プログラム	日 程：2024 年 8 月 1 日(木)～4 日(日) 活 動 地：宮城県本吉郡南三陸町・ 気仙沼市・石巻市 活動分野：災害・防災	313,308
		RootSeikei 震災復興チーム		
3	A	能登半島地震に関するボランティア活動	日 程：2024 年 9 月 4 日(水)～6 日(金) 9 月 16 日(月)～17 日(火) 活 動 地：石川県鳳珠郡穴水町・金沢市 活動分野：災害・防災	41,330
		個人参加		
4	A	気仙沼子どもたちの居場所と漁業を 学ぶ 3 日間	日 程：2025 年 3 月 4 日(火)～6 日(木) 活 動 地：宮城県気仙沼市 活動分野：地域・まちづくり	206,457
		Seivior 気仙沼チーム！		
5	A	能登半島地震ボランティア	日 程：2025 年 3 月 10 日(月)～12 日(水) 活 動 地：石川県七尾市・富山県氷見市 活動分野：災害・防災	346,000
		成蹊大学ボランティア本部 Uni. 復興支援プロジェクト		
計 1,307,095				

※種類…（A種）社会貢献、地域貢献に関する活動、（B種）学術的な調査研究活動
資料

- 成蹊大学社会活動支援奨学金給付規則（第Ⅲ章 資料（pp. 62～63）参照）

7) 学内募金活動実績

①活動一覧

名称	学内募金期間	募金金額（円）
令和6年9月能登半島大雨災害義援金	10月15日(火)～10月31日(木)	50,622

※期間終了後、全額を日本赤十字社に寄付

②募金箱設置場所

- ボランティア支援センター（本館1階）
- 学生部（本館1階）
- 大学図書館（1階カウンター、4階カウンター）

8) 刊行物一覧

- 『ボランティアハンドブック 2024「何かやってみたい!!」そんなあなたへ』
2024年4月1日発行

第Ⅲ章

資 料

1) 構成員一覧

①運営委員会

役職	職位等	氏名
運営委員長	学長	森 雄一
運営委員	副学長	山田 崇人
		小田 宏信
	経済学部長	大野 正智
	経営学部長・経済経営研究科長	上田 泰
	理工学部長・理工学研究科長	小川 隆申
	文学部長・文学研究科長	見城 武秀
	法学部長・法学政治学研究科長	浅羽 隆史
	センター所長	境 広志
	センター副所長	浅沼 雅行
	学生支援事務室事務長	谷口 敬太

「成蹊大学ボランティア支援センター運営委員会規則」(p. 61 参照)に基づいて選出

②企画執行委員会

役職	職位等	氏名
委員長(所長)	法学部教授	境 広志
委員(副所長)	学生支援事務室主幹	浅沼 雅行
委員(所員)	経済学部准教授	内藤 朋枝
	理工学部准教授	岡本 亮
	文学部教授	庄司 宏子
	法学部教授	原 昌登
委員(事務長)	学生支援事務室事務長	谷口 敬太

「成蹊大学ボランティア支援センター企画執行委員会規則」(pp. 61～62 参照)に基づいて選出

③スタッフ

職位等	氏名
学生支援事務室事務長	谷口 敬太
学生支援事務室主幹	浅沼 雅行
ボランティア・コーディネーター	田中 貴子
	野崎 敏子※1
	早川 幸子※2
事務職員	舛田 直子

「成蹊大学ボランティア支援センター規則」(pp. 60～61 参照)に基づいて構成

※1 ～2024年7月31日

※2 2024年9月1日～

2) 関連規則

成蹊大学ボランティア支援センター規則

制 定 2014年3月5日

大学評議会

最新改正 2019年5月22日

(趣旨)

第1条 この規則は、成蹊大学学則第6条第3項の規定に基づき、成蹊大学ボランティア支援センター（以下「センター」という。）に関する基本的な事項について定める。

(目的)

第2条 センターは、成蹊大学（以下「本学」という。）における学生及び教職員によるボランティア等の地域・社会貢献並びに地域交流活動（以下「ボランティア活動等」という。）に対する意識の高揚を図り、学生及び教職員が行うボランティア活動等について支援することを目的とする。

(事業)

第3条 センターは、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 学生・教職員のボランティア活動等の推進に関する企画立案、運営及び支援に関すること。
- (2) 学生・教職員のボランティア活動等の意識向上のための啓発活動に関すること。
- (3) 学生・教職員のボランティア活動等に関する教育研究活動に対する企画・支援に関すること。
- (4) 学生・教職員のボランティア活動等に関する広報及び情報発信に関すること。
- (5) ボランティア活動等に関して学長が委嘱する事項
- (6) その他センターの目的の達成に必要な事項

(構成)

第4条 センターは、次に掲げる者をもって構成する。

- (1) 所長
- (2) 所員 若干名
- (3) 事務長又は課長
- (4) ボランティア・コーディネーター
- (5) 事務職員

2 前項各号に掲げる者のほか、センターに、副所長を置くことができる。

(所長)

第5条 所長は、本学の教授のうちから、学長が任命する。

2 所長は、センターを代表し、センターの業務を統括する。

3 所長の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

4 所長が任期途中で退任した場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(副所長)

第6条 副所長は、本学の専任教職員のうちから学長が任命し、又は業務を命令する。この場合において、学長は、専任職員に対し、副所長として業務を命令しようとするときは、あらかじめ学園長と協議しなければならない。

2 副所長は、所長を補佐し、所長に事故あるとき又は所長が欠けたときは、その職務を代理し、又はその職務を行う。

3 副所長の任期については、前条第3項及び第4項の規定を準用する。

(所員)

第7条 所員は、本学の専任教員のうちから、所長が若干名推薦し、学長が任命する。

2 所員は、センターの目的達成に必要な業務を遂行する。

3 所員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

4 所員が任期途中で退任した場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(運営委員会)

第8条 センターの運営に関する基本方針及び重要事項を審議するため、成蹊大学ボランティア支援センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会に関する規則は、別に定める。

(企画執行委員会)

第9条 センターの事業の企画執行に関する事項を審議するため、成蹊大学ボランティア支援センター企画執行委員会（以下「企画執行委員会」という。）を置く。

2 企画執行委員会に関する規則は、別に定める。

(事務の所管)

第10条 センターに関する事務は、学生支援事務室が所管する。

(規則の改廃)

第11条 この規則の改廃は、大学評議会の議を経て、学長が決定する。

附 則 (2014 年 3 月 5 日制定)

この規則は、2014 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 (2015 年 6 月 3 日一部改正)

この規則は、2015 年 6 月 3 日から施行する。

附 則 (2016 年 4 月 6 日一部改正)

この規則は、2016 年 4 月 6 日から施行する。

附 則 (2017 年 3 月 8 日一部改正)

この規則は、2017 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 (2019 年 5 月 22 日一部改正)

この規則は、2019 年 6 月 1 日から施行する。

成蹊大学ボランティア支援センター 運営委員会規則

制 定 2014 年 3 月 5 日

大学評議会

最新改正 2019 年 5 月 22 日

(趣旨)

第 1 条 この規則は、成蹊大学ボランティア支援センター規則第 9 条第 2 項の規定に基づき、成蹊大学ボランティア支援センター運営委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定める。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、次の事項について審議する。

- (1) 成蹊大学ボランティア支援センター（以下「センター」という。）の運営に関する基本方針
- (2) センターの運営に関する重要事項
- (3) センターの事業計画及び予算編成の承認に関する事項
- (4) センターに関する諸規則の制定改廃の立案に関する事項
- (5) その他委員会が必要と認めた事項

(構成)

第 3 条 委員会は、次の委員をもって構成する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 学部長
- (4) 研究科長
- (5) センター所長
- (6) 学生支援事務室の事務長又は課長
- (7) その他委員長が必要と認めた者

(委員長)

第 4 条 委員長は、学長をもって充てる。

(運営)

第 5 条 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

2 委員会は、委員長が必要と認めた者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(議事録の作成)

第 6 条 委員会に議事録を備え、議事進行の過程及び審議の結果並びに決定事項を記録する。

(事務の所管)

第 7 条 委員会に関する事務は、学生支援事務室が所管する。

(規則の改廃)

第 8 条 この規則の改廃は、大学評議会の議を経て、学長が決定する。

附 則 (2014 年 3 月 5 日制定)

この規則は、2014 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 (2015 年 6 月 3 日一部改正)

この規則は、2015 年 6 月 3 日から施行する。

附 則 (2016 年 4 月 6 日一部改正)

この規則は、2016 年 4 月 6 日から施行する。

附 則 (2017 年 3 月 8 日一部改正)

この規則は、2017 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 (2019 年 5 月 22 日一部改正)

この規則は、2019 年 6 月 1 日から施行する。

成蹊大学ボランティア支援センター 企画執行委員会規則

制 定 2014 年 2 月 26 日

学部長懇談会

最新改正 2019 年 5 月 22 日

(趣旨)

第 1 条 この規則は、成蹊大学ボランティア支援センター規則第 10 条第 2 項の規定に基づき、成蹊大学ボランティア支援センター企画執行委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定める。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 成蹊大学ボランティア支援センター（以下「センター」という。）の事業の企画及び予算の立案に関する事項

第三章 資料

- (2) センターの事業の企画の執行に関する事項
- (3) ボランティア・コーディネーターの採用に関する事項
- (4) その他所長が必要と認めた事項
(構成)

第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 所長
- (2) 所員
- (3) 学生支援事務室の事務長又は課長
- (4) その他所長が必要と認めた者
(委員長)

第4条 委員長は、所長をもって充てる。

(運営)

第5条 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

2 委員長が必要と認める場合は、構成員以外の者を出席させることができる。

(議事録の作成)

第6条 委員会に議事録を備え、議事進行の過程及び審議の結果並びに決定事項を記録する。

(事務の所管)

第7条 委員会に関する事務は、学生支援事務室が所管する。

(規則の改廃)

第8条 この規則の改廃は、センター運営委員会の議を経なければならない。

附 則 (2014年2月26日制定)

この規則は、2014年4月1日から施行する。

附 則 (2016年4月20日制定)

この規則は、2016年4月20日から施行する。

附 則 (2017年4月19日一部改正)

この規則は、2017年4月19日から施行する。

附 則 (2019年5月22日一部改正)

この規則は、2019年6月1日から施行する。

成蹊大学社会活動支援奨学金給付規則

制 定 2007年2月16日

大学評議会

最新改正 2019年5月22日

(趣旨)

第1条 この規則は、成蹊大学(以下「本学」という。)の学生の社会性の向上及び人格形成の促進に寄与す

ることを目的として、学生と教員が一体となって行う社会貢献、調査研究活動等に対し給付する奨学金に關し必要な事項を定める。

2 この規則に基づいて給付する学資金を社会活動支援奨学金(以下「奨学金」という。)という。

(資金)

第2条 奨学金に要する資金は、成蹊学園奨学金基金規則に定める奨学資金をもって充てる。

(奨学金の種類)

第3条 奨学金の種類は、次のとおりとする。

- (1) A種 社会貢献、地域貢献に関する活動
- (2) B種 学術的な調査研究活動

(対象)

第4条 奨学金の受給対象は、前条各号に掲げる活動を行う学生又は学生等による団体とする。

2 前条の活動は、原則として本学に所属する専任教員の指導又は監督のもとに行われるものとする。ただし、正課における活動を除く。

(給付期間)

第5条 奨学金を給付する期間は、当該採用年度限りとする。ただし、次年度以降に再び出願することを妨げない。

(出願)

第6条 この奨学金の受給を希望する者又は団体は、次の書類を所定の期日までに学長に提出しなければならない。

- (1) 活動の種類、名称及び団体名
- (2) 代表者の氏名
- (3) 活動計画書
- (4) 予算計画書
- (5) 当該活動の指導又は監督を行う専任教員からの推薦書

(選考)

第7条 奨学金の受給者及び団体(以下「受給者」という。)は、ボランティア支援センター企画執行委員会(以下「委員会」という。)が選考し、学長が決定する。

(給付数)

第8条 採用数は、1年度あたり20件以下とする。

(給付額)

第9条 給付額は、活動計画書及び予算計画書に基づき決定する。

2 給付額は、1件あたり20万円を上限とする。ただし、学長が特に認めた場合には、40万円まで増額給付

することができる。

(誓約書の提出)

第10条 受給者は、所定の誓約書を、所定の期日までに当該活動の指導又は監督を行う専任教員を経て学長に提出しなければならない。

(奨学生の責務)

第11条 受給者は、所定の期日までに当該活動に関する報告書を提出しなければならない。

(異動報告)

第12条 受給者は、次の各号のいずれかに該当するときは、所定の異動報告書を速やかに学長に提出しなければならない。

(1) 当該活動の指導又は監督を行う専任教員を変更するとき。

(2) 奨学金を受ける団体の責任者を変更するとき。

(奨学金給付資格の取消し)

第13条 受給者が次の各号のいずれかに該当するときは、学長は、委員会の議を経て、奨学金の給付資格を取り消すことができる。

(1) 個人の場合、休学、退学し、又は学則による除籍若しくは懲戒処分を受けたとき。

(2) 第11条に定める責務を果たさないとき。

(3) 正当な理由がなく、前条に定める異動報告を怠ったとき。

(4) その他委員会が活動として適当でない行為があったと認めたとき。

(奨学金の返還)

第14条 学長は、受給者が前条の規定により年度の途中においてその資格を取り消されたときは、既に給付した奨学金の全部又は一部を返還させることができる。

(事務の所管)

第15条 奨学金に関する事務は、学生支援事務室が所管する。

(規則の改廃)

第16条 この規則の改廃は、大学評議会の議を経て、学長が行う。

附 則 (2007年2月16日制定)

この規則は、2007年4月1日から施行する。

附 則 (2015年1月14日一部改正)

この規則は、2015年4月1日から施行する。

附 則 (2019年5月22日一部改正)

この規則は、2019年6月1日から施行する。

本書は、2024 年度活動実績および事例紹介を交えて本センター事業の総括および概要をまとめたものです。社会貢献活動に携わっている団体、大学ボランティアセンター等の関係者の皆様にお送りしております。

本センターの事業に関わっていただいた皆様をはじめ、日頃から応援していただいている皆様に深く感謝申し上げます。

成蹊大学ボランティア支援センター 2024 年度 年次報告書

2025 年 4 月 1 日 発行

発 行 成蹊大学ボランティア支援センター

住 所 東京都武蔵野市吉祥寺北町 3-3-1

電 話 0422-37-3448

U R L <https://www.seikei.ac.jp/university/volunteer/>

印 刷 株式会社芳文社

SEI KEI 成蹊大学
ボランティア支援センター

